

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で16人

内訳

- (委員) ○医療関係者…学校医師会1人、拠点病院(小児科)医師1人、緩和ケアセンター医師1人
 ○学識経験者…大学准教授1人
 ○がん経験者…がんピアサポーター1人
 ○学校関係者…高等学校長代表1人、中学校長代表1人、養護教諭代表1人
 ○教育委員会…教育事務所1人
- (事務局) ○県教育委員会…保健体育課長1人、健康づくり推進室5人
 ○県知事部局…健康福祉部健康推進課がん対策推進室1人

2. 開催時期、検討内容

	期日	内容
第1回協議会	令和3年10月26日(火)	・今年度の事業説明 ・「島根県学校におけるがん教育の手引」について ・がん教育推進に向けた意見交換
第2回協議会	令和4年1月20日(木)	・今年度の事業報告 ・「島根県学校におけるがん教育の手引」について ・今後の課題等についての意見交換

② 教育委員会としての取組

「島根県学校におけるがん教育の手引(以下手引という。)」の発行

令和元年度、令和2年度に取り組んできたモデル校の実践例を県内に広げていき、さらに学校におけるがん教育を推進していくため、手引を作成した。

内容は、モデル校等の取組実践例、外部講師の活用方法、島根県の現状、参考資料などの情報を掲載している。

特に、今年度は協力校を指定し、外部講師を活用した授業展開を研究した。事前打合せを含めた実践内容等は、実践例として手引に掲載した。

今後、手引を活用し、県内に周知・普及していくことにしている。

島根県がん教育研修会の開催

日時：令和3年11月26日(金) 14時～

場所：出雲合同庁舎、益田合同庁舎、勤務校、勤務場所でのオンライン受講

目的：がんに対する正しい理解とがん患者に対する正しい認識及び命の大切さに対する理解を深めるとともに、実践校における取組を通して、学校におけるがん教育の充実を資する。

対象：高等学校、特別支援学校の保健体育科担当者及び希望する教職員
 中学校の希望する教職員 【参加者：91名】

内容：○事業説明

○実践発表

(教員の立場から、外部講師の立場から)

○講演会「新学習指導要領に基づくがん教育の進め方」

講師：東海大学体育学部体育学科 教授 森 良一氏



「外部講師リスト」の活用

知事部局の健康推進課がん対策推進室と連携して作成した「外部講師リスト」を年度当初に各学校へ送付した。

「外部講師リスト」を活用した授業の実施が増えるよう、研修会等を通して周知した。今年度のがん教育研修会では、実践発表で、学校の立場から「外部講師リスト」活用の実践例を発表してもらったり、「外部講師リスト」に登録されている方に外部講師の立場から取組実践を発表していただいたりした。

啓発活動

昨年度、教職員へがん教育の必要性について理解を深めるために作成した啓発リーフレットを活用し、がん教育研修会や養護教諭研修等を通して、がん教育の普及啓発を図った。また、新聞（月1回のがん特集ページ）の記事にしてもらい、学校におけるがん教育普及啓発につなげた。



2021年11月30日「山陰中央新報」記事より

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

外部講師派遣事業の活用

がん対策推進室が行っている外部講師派遣事業は、学校が保護者を対象としたがんに関する研修会や講演会を開催する際、講師選定や費用を支援する事業である。外部講師リストで講師を選定し、本事業を活用してがん教育を実施する学校もあった。

外部講師養成研修会

がん対策推進室と、学校におけるがん教育の進め方や授業・講演を実施するに当たっての配慮事項等をより理解してもらうため、外部講師を対象とした研修会を計画していた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で来年度に延期になった。

(2) 協力校における取組

出雲市立湖陵中学校

○外部講師を活用した授業

◇第3学年 特別の教科 道徳
〈学習指導案〉

授業者：学級担任
ゲストティーチャー：外部講師

1. 本時の目標

がんと向き合い治療した若狭さんの経験談から、生きる喜びや生きがいについて考え、互いに支え合いながら、物事を前向きに考えて生きようとする実践意欲を育てる。

2. 本時の展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点（・）と支援（◎）
1. 外部講師の紹介 2. めあての提示	◎めあて、発問等はパワーポイントでTVにうつす。
今日のめあて：若狭さんの生き方に触れ、自分を見つめ、「生きる」ことについて考えよう。	
3. 「生きる」ってどういうこと？ 4. 若狭さんが治療を受けていた時の話を聞く ・誰に1番に話したか ・困ったこと ・できなくなったこと ・こわかったこと 等 ○治療中の心の支えは何だろう？ （グループ→全体） ○自分がその“支え”になるとき、何ができるだろうか？ ・どんな言葉をかけるか。 ・どんなことをするか。（行動） （個人 → グループ → 全体） 5 若狭さんの話を聞く ・治療中周りの人にしてもらって嬉しかったことは。 ・がんの治療を乗り越えた後で人生にどんな変化があったか。 6 振り返り ・若狭さんの話を聞いて「生きる」ことについて自分の考えはどう変わったか書きましょう。 7 まとめ ・若狭さんが伝えたいこと	・がん患者の生活を想像し考えた内容と比べてみる。 ◎生徒から出た意見は復唱する。 ◎若狭さんへの質問は教員が行う。 ・どうしてそのように考えたか、理由も言えるようにしておく。 ◎「自分にできることはない」という生徒には、他の生徒の考えから気づかせる。 ◎特別なことではなく、いつも通り接することも意味があることに気づかせる。 ◎若狭さんの話や友だちとの意見交換から、生きることについて考えたことをワークシート③に記入させる。

3. 外部講師との事前打合せポイント

- ・これまで学習したがん教育の内容、生徒の実態について情報共有する。
- ・外部講師の経験、思いや願い等を聞く。
- ・事前アンケートから分かるがんについての認識を情報共有する。
- ・事前アンケートをもとに作成した学習内容を説明する。
- ・意見交換をしながら授業の流れを決めていく。
- ・生徒から外部講師への質問の回答依頼をする。
- ・ITで実施する際の役割分担、時間配分等を確認する。



○外部講師を活用した授業
◇第1学年

授業者：学級担任
ゲストティーチャー：外部講師

1. 資料教材

ねらい

「がん患者や周囲の人々の生活の質
を保つためにできることを考える」

本時の流れ

1. がんについて復習
2. 生活の違いについて
3. 今の生活で困ること
4. まとめ

Question. 1

「がんになる前と後で、
生活に違いがあった」



復習
生活の違い
困ること
まとめ

Question. 2

どんな違いがあったか
考えてみよう

ホワイトボードに書き出そう

復習
生活の違い
困ること
まとめ

がんを経験して

がんになったから終わり
なのではなくて

がんになったからこそできること

復習
生活の違い
困ること
まとめ

Question. 3

「今の生活の中で、人間関係
で困ることがある。」



復習
生活の違い
困ること
まとめ

Question. 4

人間関係で困ることがないのは、
なぜだろう

ホワイトボードに書き出そう

復習
生活の違い
困ること
まとめ



2. 外部講師との事前打合せポイント

- ・授業のねらいを確認する。
- ・生徒の事前アンケートから分かるがんについての認識を外部講師と情報共有する。
- ・授業展開の流れを伝える。
(授業形式で行い、体験談を話してもらう流れで行いたいという学校のニーズ)
- ・授業で使う教材(スライド資料)作成にあたり、資料の提供を依頼する。
- ・教材(スライド資料)の内容を確認してもらい、微調整する。
- ・授業中の役割分担、時間配分等、授業の詳細を確認する。

2. 事業の達成度について

協力校における成果

- ・外部講師との事前の打合せを充実させたことで、ねらいに沿った学習や生徒の実態に合った授業ができた。
- ・教員では伝えきれない内容を話していただけて、外部講師活用の効果があった。
- ・一方的に話してもらっただけでなく、生徒の話し合い場面を設定したことで、自分のこととして深く考えることができていた。

湖陵中学校 生徒の感想

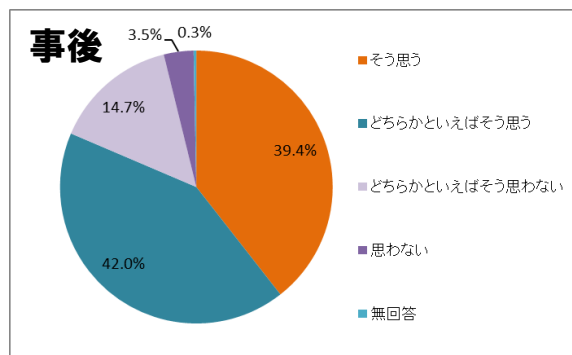
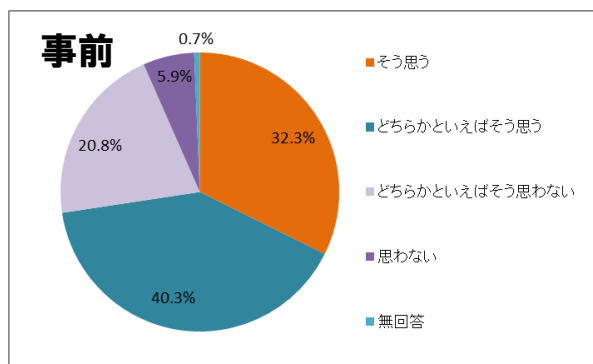
- 生きる意味は人それぞれ違う答えがあるんじゃないかなと思いました。なんで生きていたいのかは、人それぞれの好きな人や物が支えとなって、そう思えるんだと感じました。この授業を受ける前は、生きる意味は、はっきりとしていなかったけど、授業を受けてからその答えを見つけるために生きていくんだと思いました。そして、その答えはとても近くにあることなんだなと思いました。だけど、生きる意味は分かったけど、生きることはなんなのかはまだ分かりません。
- 僕は、生きることは当たり前なことだと思っていました。だけど、今日の学習で生きることの大切さや生きられることは当たり前ではないことを知りました。僕の身のまわりにもがんで亡くなった人がいるけれど、その人の気持ちを考えると「もっとこうしとけば良かった」などの後悔が出てきました。これからはいつ誰かががんや病気にかかるかは分からないので、その人の支えになれる存在になりたいです。

湖陵中学校 授業研究協議での教員の感想

- ・自分だったらどう答えるだろうかと自分も生徒のように考えさせられる授業だった。
- ・グループで話すことによって、自分にはない考えに気付いていた。だんだん外部講師の方の伝えたいことがわかっていったように思う。
- ・担任の先生が、生徒へ問い返して理由を掘り下げて聞いていた。これが生徒も考えるきっかけになっていた。
- ・この授業に参加できてよかった。外部講師の方の話を聞けて良かった。

協力校（2校）のアンケート変容

Q:がんになっても生活の質を高めることができる。



がん教育研修会の成果

- ・研修会を通して、がん教育の大切さや法的根拠などの理解が進み、がん教育に対して受講者から前向きな感想が多く聞かれた。

受講者の感想より

- ・がん教育の大切さや法的根拠など基本的なところがよくわかり、がん教育を進めるにあたって自信がついた。
- ・細胞を学習した上でがん教育を実施することは、がんを正しく理解し適切に対処する実践力を育てるには欠かせないことがとてもよく理解できた。
- ・実践発表で、具体的な取組を知ることができ、とても参考になった。
- ・外部講師の方と事前にしっかり授業の展開を考え、有効な授業になるよう準備が重要であると感じた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・今年度発行した「島根県学校におけるがん教育の手引」を活用して推進していく。
- ・今後の評価につなげるための KPI の目標値を設定し、取組が広がるよう働きかけていく。
- ・小学校、中学校、高等学校のつながりを意識した学習内容や学習評価を整理していく必要がある。
- ・配慮する児童生徒への対応に不安がある学校も多く聞かれるので、協議会や拠点病院等と連携して、不安解消に向けた取組をしていく必要がある。
- ・引き続き、がん対策推進室と連携し、外部講師の方々に学校におけるがん教育の進め方、実態や推進方法等について理解してもらえよう働きかけていく必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・継続して、外部講師を活用するときは、学校が主体であること、打合せや振り返りをする必要があること等、外部講師の活用方法について、外部講師リストとともに周知していく。
- ・コロナ禍におけるがん教育研修会の内容について検討していく。
- ・先進校以外でも取組が広がるように、研修会等の機会を通じて周知していく。（カリキュラムマネジメントを充実させ、教科横断的ながん教育の実践）

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で26人

【内訳】

県医師会代表1人、がん専門医1人、大学准教授1人、県薬剤師会学校薬剤師部会代表1人、推進地域医師会代表1人、がん専門看護師1人、がん経験者1人、PTA2人、校長6人、教諭2人、養護教諭1人、県健康福祉部1人、推進地域福祉部1人、推進地域市教委担当者1人、県教委5人

2. 開催時期、検討内容

○ 第1回山口県がん教育推進協議会 7月8日(木)

議事

- ・学校におけるがん教育の動向について
- ・推進計画について
- ・評価の進め方について
- ・外部講師リストの充実について
- ・令和4年度の推進地域・推進校の選定方法について

○ 第2回山口県がん教育推進協議会 2月3日

報告

- ・今年度の取組について
- ・推進校の授業実践について
- ・今年度の成果と課題

協議

- ・山口県におけるがん教育の推進を図る手立てについて
- 協議委員によるがん教育のアンケート

② 教育委員会としての取組

○ 推進校に外部講師(大学准教授、がん看護専門看護師、がん経験者)を派遣

○ がん教育推進地域(山陽小野田市)において教育講演会を開催

下関市教育委員会教育長 児玉典彦 氏の御協力の下、山陽小野田市内及び近隣地域の教職員を対象として「声とひきかえに」と題して教育講演会を実施。新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮して、会場には山陽小野田市内の学校からは代表者各1人のみ参加とし、その他の山陽小野田市内及び近隣市の教職員はオンラインで聴講した。

○ 実践事例の周知

昨年度作成した実践事例集に加え、今年度推進校の実践事例をWebサイトにて紹介。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○ 県保健部局との連携

県健康福祉部医療政策課に、「がん教育推進協議会」の委員を依頼し、助言を得るとともに、県や国の動向についての情報提供や、外部講師の紹介など全面的な協力を得た。

○ 推進地域(山陽小野田市)保健部局との連携

山陽小野田市福祉部健康増進課と連携し、同市内の小野田小学校、小野田中学校におけるワーキンググループ会議で授業づくりを行った。また、小学校においては公開授業後、健康増進課職員を外部講師として、がん検診促進のポスターの授業を実施した。

(2) モデル校における取組

○ 推進校（モデル校）

山陽小野田市小野田小学校、山陽小野田市立小野田中学校、山口県立小野田工業高等学校

○ 公開授業（研究授業）

・ 10月21日（木） 山陽小野田市立小野田小学校

（第6学年学級活動 公開授業参加者数15名）

【指導者】 6年生担任、乳がん体験者

【単元名】 がんについて考えよう

【主 眼】 がんの原因やがん検診などについて知ることを通して、自分や大切な人のために、自分にできることを考え、伝え合うことができる。

【本時の流れ】

- 1 がんの現状と原因について知る。
- 2 がんの治療や治療中の生活について聴き、患者の方の思いを想像する。
- 3 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。
- 4 大切な人のために自分に何ができるか考える。
 - ・伝えたいことは何か、伝える方法にはどんなことがあるか。



・ 11月18日（木） 山陽小野田市立小野田中学校

（第2学年保健体育科 公開授業参加者数11名）

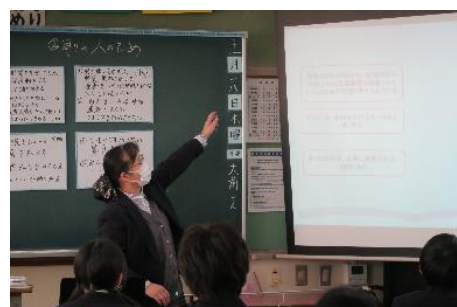
【指導者】 保健体育科教諭、山口県立大学准教授

【単元名】 健康な生活と疾病の予防 ～生活習慣病とその予防～

【主 眼】 がんについての基礎的な知識を理解し、自他の健康を維持する方法について主体的に考え、表現できるようにする。

【本時の流れ】

- 1 がんについて知る。
- 2 がん健康を害することなく生活していくためにできることを考える。
 - ・自分のためにできること
 - ・周りの人のためにできること
- 3 本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。



・ 11月22日（月） 山口県立小野田工業高等学校

（第1学年保健体育科 公開授業参加者数12名）

【指導者】 保健体育科教諭、がん看護専門看護師

【単元名】 現代社会と健康 ～生活習慣病などの予防と回復～

【主 眼】 がん患者への理解を深め、共生できる社会について自分の考えをまとめ表現できる。

【本時の流れ】

- 1 がんの現状・原因・治療方法について知る。
- 2 がん患者について考える。
- 3 がん患者と共生できる社会について考える。
- 4 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。



○ 教育講演会

- ・ 11月18日（木） 山陽小野田市立小野田中学校

【演 題】 「がんを経験して」

【講 師】 NPO 法人がんネットジャパン認定
乳がん体験者コーディネーター
井上裕香子 氏

【受講者】 第2学年、公開授業参加者

【講演の概要】

がん患者への理解、検診の必要性（早期発見）、がん患者への支えの必要性、治療の過程や治療法など、井上先生の体験を中心に講演していただいた。その後、生徒からの質問に答えていただいた。



2. 事業の達成度について

（1）協議会の評価について

第2回協議会のアンケートで「協議会として十分な支援を行えたか」の質問に53.8%の方が「はい」と回答された（無回答は事務局）。

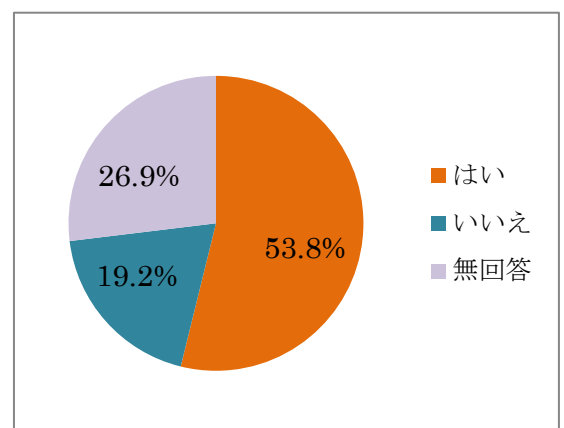
「いいえ」と回答された方からは、

- ・ 協議委員が公開授業へ参加し、指導助言が必要。
- ・ コロナ感染拡大のため、例年実施していた講師を招いてのがん教育の講話などが実施できなかった。
- ・ 取組から見えた課題を踏まえ、より良い支援を検討する段階だと思う。

などの意見をいただいた。また、その他の意見として

- ・ 外部講師（がん経験者等）の派遣システムについて構築していき児童・生徒の実態と共に、授業の目的にあった講師招聘ができるとより効果的ながん教育が展開できるのではないかと思った。
- ・ 授業をとおして命の大切さ、健康が如何に大切なのかを知る機会になると良いと思う。もう少し県だけでなく、市町健康増進課、教育委員会等でできることから始めてほしい。
- ・ 外部講師の人材バンク、もしくは紹介窓口をつくることをリードすることこそが、本協議会の取組として上がってくるのではないか。
- ・ 様々な立場の協議会委員が、「がん教育を通して社会を変える」くらいの勢いがあれば、がん教育はさらに推進できる。
- ・ 中学・高校の実践授業では、「保健」の授業として実施されていますが、「理科」の授業との連携で、適時をつえた、科学的な、より本質的な理解が得られると感じました。
- ・ 「がん教育」を学んだことのない保護者と、学校で学んだ児童・生徒が、健康（がんに限らず）について共に考える仕組みづくりをするとよいと思います。

といった、御意見をいただいた。



（2）児童生徒の事前・事後アンケート結果

アンケートの結果から、児童生徒はがんの学習は重要であり、健康な生活を送るために重要な学習であることの理解が進んでおり、がん検診を将来受診しようとする児童生徒が増えている。また、がんの治療に関してやがん患者のQOLに関する意識も数値も向上しており、がん教育を通じて、がんに向き合う人々に対する共感的な理解を深め、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成につながっていると考えられる。

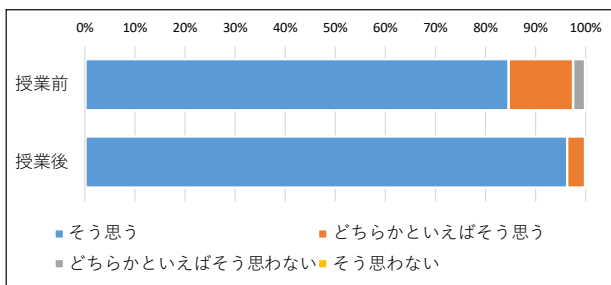
また、がんと健康について家族と話をしようとする児童生徒も増えており、児童生徒を通じて、家庭への「がんについての理解の促進」も期待される。

一方、「がんは日本人の死因の第2位である」の質問に対して「誤り」と回答した割合は、70%に届かない。小・中・高等学校で繰り返し学習することで、正答率の向上を目指す。

アンケート結果（抜粋）

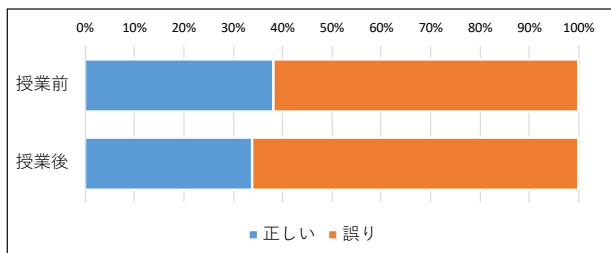
〈1-a〉

がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。



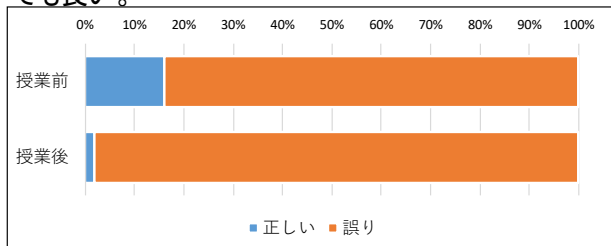
〈2-c〉

がんは日本人の死因の第2位である。



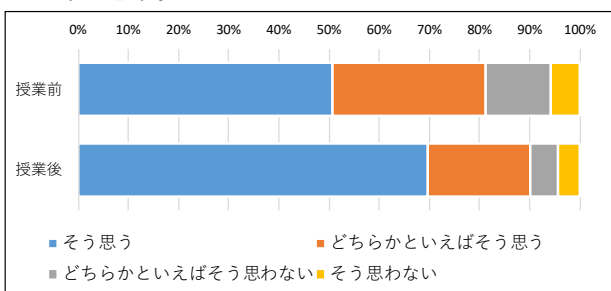
〈2-f〉

体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。



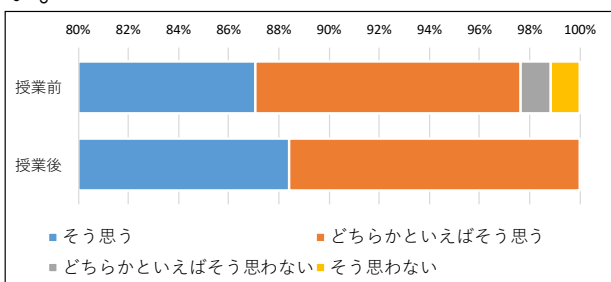
〈3-d〉

がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。



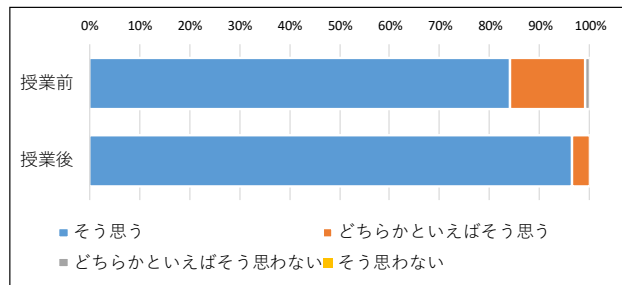
〈3-g〉

がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。



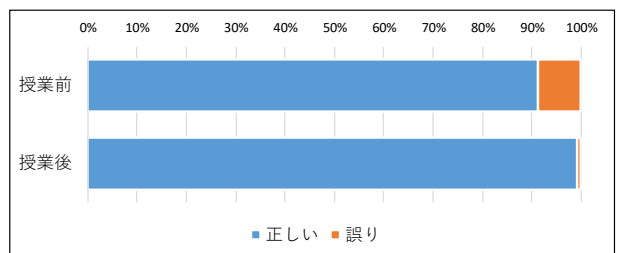
〈1-b〉

がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。



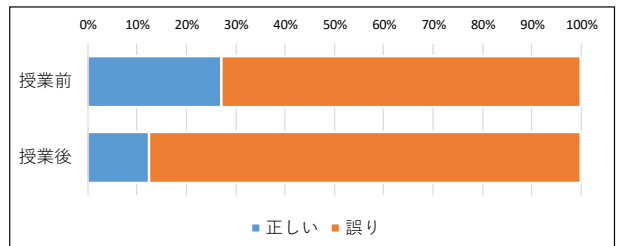
〈2-e〉

早期発見すれば、がんは治りやすい。



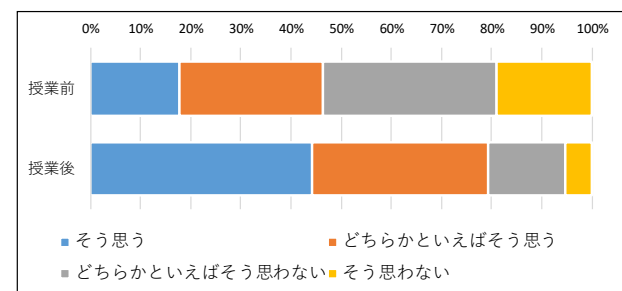
〈2-g〉

がんの治療法には手術治療しかない。



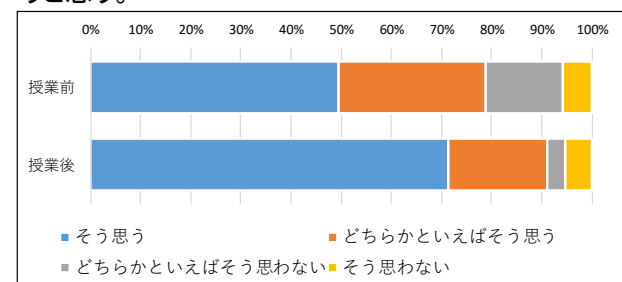
〈3-f〉

がんになっても生活の質を高めることができる。



〈3-h〉

がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。



3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○ 講師の専門性やこれまでの経験を十分に生かす授業の工夫

今年度、ワーキンググループ会議で話題となったのが、「講師の専門性等をどのように生かすか」であった。授業者がねらいや学習内容に応じて、大学関係者や医療関係者等の専門性、がん経験者の体験や思いなどをより効果的に児童生徒に伝えていくために、講師が指導する場面や方法を工夫し、評価につなげていく必要がある。

○ がん経験者等を対象とした講習会の実施

8月～9月に新型コロナウイルス感染症の第5波があり、昨年に引き続き、がん経験者も対象とした講演会が実施できなかった（対象を近隣の学校及び地域としたため）。

また、県内のがん経験者からがん教育に協力したいが、どのようにすれば協力することができるのかという問い合わせがあった。全国がん患者連合会が主催する「がん教育外部講師のためのeラーニング」受講者（Webページでも確認可能）のため、情報を把握することはできたが、学校の紹介につなげることができなかった。また、推進協議会内で、多くの委員から人材バンクの作成について指摘があった。

外部講師の協力を得ながらがん教育を多くの学校で実施していくためには、大学や医療機関、行政だけでなくがん経験者の協力も必要となるため、知事部局や地域がん診療拠点病院、がん経験者団体等と連携しながら、外部講師派遣等にかかる相談・情報提供を進めるとともに、外部講師向けの講習会の開催が必須である。

○ 学校におけるがん教育推進のための研修会等の充実と普及

学校教育の取組を県内全域に普及させていくため、引き続き推進モデル地区を設けて公開授業や授業検討会、教育講演会を実施し、普及、推進に努めていく必要がある。

また、小・中・高の系統性のある学びを実現するために、校種のバランスの取れた指定にも努めていく必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

○ がん教育の継続的な実施

今年度は、教職員対象のがん教育講演会を実施し、教職員への啓発と資質の向上を図った。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、当初予定していた山陽小野田市学校保健会との共催ではなく、小野田市教育委員会の講習会として扱ったため外部講師となり得る医療関係者やがん経験者を対象とすることができなかった。

今年度の反省を踏まえて、オンラインを活用した講習会の開催など、県健康増進課やがん経験者団体と連携し、特にがん経験者に広く周知し、外部講師リストの拡充を目指す。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

- ・香川県医師会代表（外科医）
 - ・香川県学校医代表（小児科医）
 - ・香川県在宅保健師会代表（会長）
 - ・香川大学医学部附属病院がん相談支援センターがん看護専門看護師
 - ・香川県小学校教育研究会（学校保健部会長）
 - ・香川県中学校教育研究会（保健体育部会長）
 - ・香川県高等学校教育研究会（保健体育部会長）
 - ・香川大学医学部代表（大学教授）
 - ・香川大学医学部代表（大学准教授）
 - ・保健所（保健センター）代表（職員）
 - ・香川県 PTA 連絡協議会代表（副会長）
- （関連組織） 香川県医師会 香川県健康福祉総務課 香川県 P T A 連絡協議会

2. 開催時期、検討内容

- 第1回協議会（9月：オンライン会議）
 - ・令和3年度香川県がん教育協議会設置要綱と委員の紹介
 - ・令和2年度がん教育総合支援事業における成果と課題の報告
 - ・令和3年度香川県教育委員会主催の香川県がん教育総合支援事業計画の説明
- 第2回協議会（2月：香川県健康福祉総務課主催香川県がん教育推進委員会と兼ねる）
 - ・ゲストティーチャー派遣事業の実施状況の報告
 - ・がん教育研修会（オンライン研修）の報告と案内
 - ・今後のがん教育の方向性について

② 教育委員会としての取組

- がん教育研修会（対象：教職員、教育委員会内指導主事及び学校保健担当者、県内ゲストティーチャー経験者、教員を目指す大学生、香川県がん教育協議会委員）

本研修は、新学習指導要領に対応したがん教育の実施に向けて、教職員のがんに関する知識・理解を深めるとともに、県下の学校におけるがん教育の普及・啓発を図ることを目的として毎年開催していたが、令和3年度はオンライン研修とし、YouTubeに講師の講演動画を限定公開し、研修対象者が視聴できるよう、体制を整備した。

<第1講>

講 師 昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授 副島 賢和 氏

演 題 「がん教育で知っておくべきこと、心がけるべきこと」

講師紹介 副島賢和氏は、赤はな先生と呼ばれ、院内学級の教諭として、多くの病気の子どもたちに関わってこられ、その姿は、ドラマ化されたり、ドキュメント番組で紹介されたりしている。現在も昭和大学病院内学級の担任として、穏やかな口調で話しかけ、子どもに寄り添い続けている。がん教育を実施するに当たり、病気と闘っている子どもたちへの配慮などご講演いただいた。

<第2講>

講 師 NPO 法人がんサポーターサポート 副理事長 中原 美夏 氏

演 題 「がんサポーターサポート～がんからの贈り物～」

講師紹介 中原美夏氏は、NPO 法人がんサポーターサポート副理事長として活躍されながら、九州を中心に学校で行われるがん教育に積極的に参加され、ゲストティーチャーとして、がんの闘病を経験されたことをもとに、命の大切さを子どもたちに語っておられる。今回の講演では、がん患者の立場から授業で配慮すべき点をお話しいただくとともに、ゲストティーチャーして子どもたちへ話された内容を実演していただいた。

<第3講>

講 師 高松赤十字病院 臨床心理士 島津 昌代 氏

演 題 「がんと共に生きる人を支える～トータルペインの観点から～」

講師紹介 島津昌代氏は、高松赤十字病院の臨床心理士として勤務されながら、県内外でがん患者を支援

する講演会等を開催されるなど、がんの理解とがん患者と共に生きる社会をめざし、ご活躍されている。今回の講演では、臨床心理士の立場から、がん教育を実施するにあたっての留意点や子どもたちへの配慮のポイントをお話しいただいた。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○「授業者研修会」

香川県では、県健康福祉部と連携し、在宅保健師会やがん診療連携拠点病院等の協力を得て、希望する中学校に保健師や看護師をゲストティーチャーとして派遣している。そこで、毎年6月にゲストティーチャーとして派遣される保健師や看護師などを対象に、「授業者研修会」を開催し、新学習指導要領におけるがん教育の位置づけや授業での留意点等を説明していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から紙面での資料提供とし、新規にゲストティーチャーに登録された講師は、関係学校の協力のもと、他のゲストティーチャーの授業を参加して、がん教育における授業のポイントを学ぶ機会を設けた。

○令和4年度のがん教育支援事業に関する協議

香川県では、県健康福祉部と連携し、がん教育の授業支援のため、中学校へ看護師や保健師等を派遣していたが、令和3年度をもって、支援事業が終了することから令和4年度のゲストティーチャー派遣体制整備については、健康福祉部と協議を行った。健康福祉部は香川県のがんに関する情報（部位別罹患率や検診受検率等）を更新し、教育委員会は協力の申し出があった香川県看護協会やがん経験者等と連携し、令和4年度、ゲストティーチャーの派遣体制を整備していくこととなった。

（2）モデル校における取組

①モデル校選定の方法

県内公立小学校等に対し、がん教育の授業や研修会等にゲストティーチャーを派遣する事業案内を行い、希望調査をおこなった。がん教育の授業は、香川県が作成しているがん教育の手引き（指導案あり）をもとに実施することを条件とした。

ゲストティーチャーとの打ち合わせ確認書を作成し、香川県作成「がん教育の手引き」や教材を事前に確認し、ゲストティーチャーの講話内容や授業内で役割分担を十分に行うこととした。

②モデル校の研究授業の内容

<モデル校①>

- ・学 校 名：さぬき市立さぬき北小学校
- ・研究授業日：令和3年11月17日（水）
- ・学 年：6年 39名
- ・授 業 時 数：1時間
- ・テ ー マ：「がん博士になろう」

<モデル校②>

- ・学 校 名：高松市立屋島東小学校
- ・研究授業日：令和3年11月25日（木）
- ・学 年：3年 18名
- ・授 業 時 数：1時間
- ・テ ー マ：「体の力をパワーアップするひみつを見つけよう」

<モデル校③>

- ・学 校 名：善通寺市立南部小学校
- ・研究授業日：令和3年12月14日（火）
- ・学 年：6年 120名
- ・授 業 時 数：1時間
- ・テ ー マ：「がんについて知り、予防するために自分のできることを考えよう」

<モデル校④>

- ・学 校 名：高松市立高松第一小学校
- ・研究授業日：令和3年12月14日（火）・15日（水）
- ・学 年：6年 104名（2クラスごと実施）
- ・授 業 時 数：1時間
- ・テ ー マ：「がんのひみつ」

<モデル校⑤>

- ・学 校 名：まんのう町立琴南小学校
- ・研究授業日：令和3年12月16日（木）
- ・学 年：6年 10名
- ・授 業 時 数：1時間
- ・テ ー マ：「がんについて知り、予防するために自分ができることを考えよう」



2. 事業の達成度について

1 本県のがん教育実施状況

本県では、健康福祉部と連携し、がん教育に対するアンケート調査を行っている。

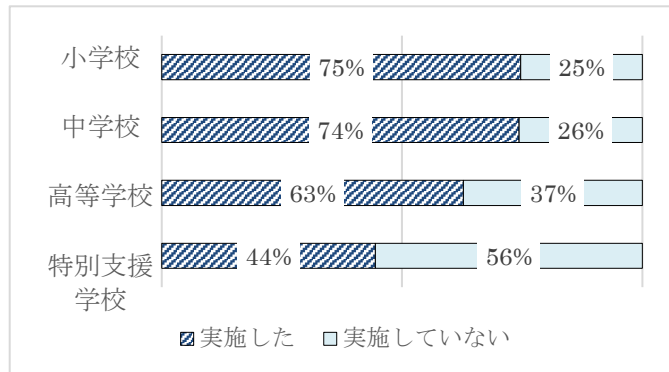
調査対象：県内全ての各小・中・高等学校・特別支援学校 全 280 校

調査期間：11 月上旬～11 月下旬

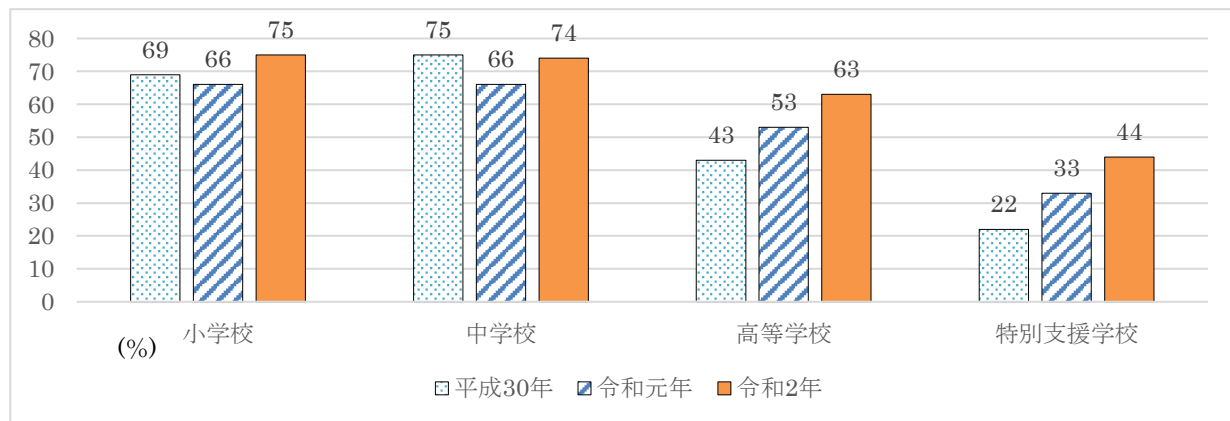
回収率：100%

○がん教育の実施(予定含む)状況

	実施した	実施していない
小学校（154 校）	115 75%	39 25%
中学校（74 校）	55 74%	19 26%
高等学校（43 校）	27 63%	16 37%
特別支援学校（9 校）	4 44%	5 56%



参考 「がん教育実施状況」の推移



新学習指導要領の移行期間に伴い、がん教育の実施率は上昇している。

2 本事業における達成度

上記アンケート調査結果から、外部講師を活用した学校は小学校で11校（内本事業活用5校含む）、中学校29校、高等学校1校、特別支援学校0校とあり、「情報がない」、「日程調整の難しさ」、「経費の確保」の順で外部講師活用の課題が挙がっている。講師派遣に関する情報発信を更に行っていくとともに、モデル校での好事例を紹介し、各校が実践しやすい体制整備が必要である。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○今後の課題及び手立て

1. 全校種でのがん教育の普及（国費）
 - ・新学習指導要領の内容を踏まえたがん教育の実践が必要であるため、ゲストティーチャー派遣を実施する。
2. がん教育研修会の開催（国費）
 - ・オンライン研修の拡充に向け、市町教育委員会と協力し、更に環境整備を行っていく。
 - ・教職員だけでなく、
3. がん教育教材資料の作成（国費）
 - ・関係団体と協力し、香川県のがんに関する最新情報や授業で活用できる視聴教材等を作成する。
4. 外部講師のリスト化推進
 - ・今後は、全校種に対応した外部講師リストを作成するとともに、本事業終了を見据え、関係団体と連携し、県内のゲストティーチャー派遣体制を整備していく。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

県内の学校において、がんに関する教育を推進するための支援体制や具体的な取組についての検討及び普及啓発を行うための方策等を関係者が協議した。

1 構成員

全体で6名

(内訳：学識経験者(大学教授)1名、医療関係者(がん専門医・放射線診断部長)1名、がん患者会関係者1名、学校関係者(県PTA連合会副会長、県立学校長)2名、県保健福祉部健康増進課担当係長1名)

No	氏名	所属及び役職	備考
1	日野 克博	学識経験者	愛媛大学教育学部教授
2	菅原 敬文	医療関係者	四国がんセンター医師
3	吉森 公恵	がん患者会関係者	おれんじの会
4	山本 英二	保護者代表	愛媛県PTA連合会副会長
5	山本 公治	愛媛県立今治西高等学校	推進モデル校校長
6	三宅 宏和	行政関係者	県保健福祉部健康増進課

2 開催時期・検討内容

【第1回がん教育推進協議会】オンライン開催

10月13日(水)14:00～15:30

協議内容

- ・ 令和3年度事業概要について
- ・ 推進モデル校での具体的な進め方について
- ・ 各学校種におけるがん教育の取扱いについて
- ・ がん教育指導参考資料等の活用方法について

【参加人数：大学関係者・医療関係者・モデル校関係者等 6名】

【第2回がん教育推進協議会】オンライン開催

2月10日(木)14:00～15:30

協議内容

- ・ 令和3年度事業報告
- ・ がん教育モデル校における実践報告
- ・ 成果と課題
- ・ 学校における今後のがん教育の進め方について
- ・ 各機関との連携について

② 教育委員会としての取組

○ 各学校におけるがん教育の推進に向けて

新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて、県下全域の教職員を対象とした参集型によるがん教育研修会は中止とした。

がん教育推進モデル校（高等学校）において、保健体育科教員と外部講師がチーム・ティーチングを行う様子を公開し、県下各校種からの参加者にモデルプランを示した。

がん教育推進チーム（中学校）において、外部講師を活用した授業展開や、各種資料の活用方法等について研修を深めるとともに、推進チームメンバーが自校における実践を公開し、授業展開等について協議を行った。

また、各学校における、より積極的ながん教育の展開へとつなげるため、授業の様子を愛媛CATVの協力を得て撮影・編集し、作成した映像資料を次年度の研修会等で活用していくこととしている。

○ 教育活動全体におけるがん教育に向けて

専門医、がん患者会関係者等と連携したがん教育を進める中で、文部科学省や県が作成した資料の活用方法や、効果的な提示の方法等について協議し、公開授業等を通してモデルプランを提案した。

また、公開授業後の研究協議において、保健体育科以外の取組や地域・保護者との連携等について参加者と情報交換を行い、教育活動全体におけるがん教育へとつなげた。

○ がん教育推進リーダーの育成に向けて

新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みて、大人数による参集型の一斉研修会ではなく、学校単位や少人数での研修やチーム会議を複数回開催し、「持続可能ながん教育」について実践協議を重ね、県内各地域における「がん教育推進リーダー」の育成に努めた。

がん教育推進リーダーは、県内各地区の中学校保健体育科教員4名で編成し、互いの授業を参観し合い、外部講師や資料の活用について協議を重ねた。今後は、それぞれの所属地区を中心に、積極的に情報発信をしていくことで、がん教育の更なる推進につなげていきたいと考えている。

○ 映像資料の作成

今後、各種研修会において活用が可能な映像資料の作成を行い、3パターンの資料を作成した。

- ① 四国がんセンター医師の講演映像（30分）
- ② 保健体育科担当教員（中学校）と、四国がんセンターボランティア（外部講師）の、T・Tによる授業映像（50分）
- ③ 外部講師の講話映像（20分）

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

県保健福祉部や四国がんセンター、がん患者会と連携し、外部講師の育成や研修会の開催などについて協議した。

また、愛 GIVER Project 募金活用事業として愛媛新聞社が主催する「がん教育外部講師育成研修」に県教育委員会保健体育課指導主事が講師として参加し、推進モデル校（高等学校）における講演会や公開授業において、外部講師と連携した取組を紹介するとともに、県内におけるがん教育の現状と今後の課題や方向性について伝える場となった。

(2) がん教育推進モデル校における取組

【愛媛県立今治西高等学校】

講演会

打合せ	令和3年11月18日（木）オンライン開催
開催日	令和3年11月22日（月）
対 象	第1学年、教職員
講 師	四国がんセンター放射線診断部長 菅原 敬文 氏 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 吉森 公恵 氏

事前打合せにおいて、配慮事項（生徒の実態等）を含めた情報共有を図った後、講演内容や当日の流れについて確認を行った。

講演会終了後、講師（2名）への質問の時間を設定し、治療法のことや、治療と仕事の両立などについての質問に対応していただいた。



公開授業

開催日	令和3年12月3日（金）
学年・組	第1学年8組
教 科	保健体育科
授業内容	がん～治療から社会復帰を目指して～
授 業 者	保健体育科 教諭 永井 聖太 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 吉森 公恵 氏
指導助言	愛媛大学教育学部 教授 日野 克博 氏



公開授業本番前の11月24日に別のクラスで事前授業を行った。

授業後に、全体の流れや、T1とT2の役割分担、生徒からの質問に対する外部講師の回答の内容や資料の提示の仕方等について、指導助言者・外部講師・授業者で協議し、改善点を明確にした。

当日は、小学校から高等学校まで各校種から約30名の参加があった。過去の推進モデル校授業者（中学校）も3名参加しており、授業後の研究協議において外部講師の活用やTTによる実践について意見交換を行った。また、外部講師も協議に参加し、学校と関係機関との連携や、外部講師を活用する上での留意点等について情報交換を行った。

（３）その他

がん教育推進チームによる取組

【協力校：松山市立城西中学校】

外部講師打合せ 令和3年10月8日（金）

場 所：松山市立城西中学校

参加者：①外部講師 四国がんセンターボランティアグループふれ愛

代 表 塚野 加代 氏

②授 業 者 松山市立城西中学校 教諭 吉田 知之 氏

③愛媛CATV（撮影・編集スタッフ）

④愛媛県教育委員会保健体育課 指導主事 大野 小百合

内 容：授業展開と役割分担等、撮影動画内容について

保護者アンケートによる情報共有、授業展開や時間配分の確認等

公開授業

開催日	令和3年11月8日（月）
学年・組	第2学年5組
教 科	保健体育科
授業内容	生活習慣病とその予防（がんの予防）
授 業 者	保健体育科 教諭 吉田 知之
指導助言	茨城大学 教授 吉野 聡 氏

映像資料確認・編集

場 所：四国がんセンターボランティアルーム

参加者：外部講師 四国がんセンターボランティアグループふれ愛

代 表 塚野 加代 氏

愛媛県教育委員会保健体育課

指導主事 大野小百合

内 容：編集動画の確認

2. 事業の達成度について

[モデル校・推進協力校における成果]

参加者の感想より抜粋

TTでの授業を初めて見せていただき、経験をされた方がいると、生徒がより、がんを身近に感じられるなと思いました。グループでの話し合いの時、外部講師の方が話しかけ、耳を傾けている様子を見て、生徒は安心して考えを深めることができましたと思います。また、永井先生の、ヒントになる声掛け、前時の内容をさりげなく思い出させる姿を見て、すごいなと感じました。

参加者の感想より抜粋

○ 高校での授業を見せていただき、中学校の学びが高校へつながっていくということを身をもって感じる事ができました。今日、参加し、大きな学びを得ることができました。研究協議にも外部講師の方が参加されていて、学校と連携する上でのお話を聞かせていただくことができ、がん教育について新たな視点で考えることができました。



生徒の感想より抜粋

・ ぼくは、がんになるのは誰のせいでもなく、仕方がないことが分かりました。でも、予防をすることができるということを知りました。がんを予防するためには、がん検診による早期発見が大切ということがわかりました。

・ 自分はがんにかかる、体全体が痛くなったり苦しくなったりすると思っていたけれど、精神的にも苦しくなる病気で、自分だけでなく、家族や友達も苦しくなると思いました。2分の1という確率を知って自分のこととして考えていこうと思いました。塚野さんの話を聞いて、改めてがんに対する意識を高めていき1日1日を大切に生きていきたいと思いました。

生徒の感想より抜粋

・ 私の母は、多発性硬化症という病気です。塚野さんと同じように、死を何度も考えたそうです。母はいつも「お母さんが死ぬまでにいろいろ覚えなさい。」と言ってきます。私もつらいですが、塚野さんと同じように母もつらいんだな、と思いました。

・ 私の母は乳がんでした。当時私は5歳で、がん患者である母を氣遣ってあげられるほど大人ではありませんでした。周りの大人に迷惑をかけまいと声を押し殺して泣いた記憶があります。今でも、自分の出産が病気の引き金になったのではないかとつらくなります。でも、今回のお話を聞いて、前を向けた気がします。体験したからこそ生きることの尊さがわかる方からの貴重なお話を聞くことができ、うれしかったです。



[指導参考資料活用における成果]

- ・ 文部科学省や県が作成した参考資料を活用することで、科学的な根拠や情報に基づく基本的な内容や共通内容を具体的に示すことができるため、各学校で取り組みやすくなり、がん教育の普及啓発ができた。

[外部指導者の活用における成果]

- ・ 医療関係者とがん患者会関係者の協力を得て、モデル校において、がんセンター医師及びがん経験者の2名を講師とした講演会を開催し、推進モデル校の希望する内容について双方で系統性のある講演会を実施できた。また、講演を行ったがん経験者が、その後の授業の外部講師となり、知識と生活をつなげる役割を担うことができた。
- ・ 推進協力校において、保健体育科教員とがん経験者の外部講師がT・Tで授業を行い、学んだ知識を実践へとつなげる意識の向上が見られた。

[がん教育推進体制における成果]

- ・ 関係機関等（がん診療連携拠点病院、がん患者会、保健福祉部）との連携により、多面的ながん教育を推進することができた。
- ・ 大人数による参集型の一斉研修会ではなく、学校単位や少人数での研修やチーム会議を複数回開催し、「持続可能ながん教育」について実践協議を重ね、県内各地域における「がん教育推進リーダー」を育成することができた。

また、「がん教育推進モデル校」における公開授業後の研究協議の中に、外部講師の講話や質疑応答の時間を設定し、参加者の研修の機会を確保できた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ がん教育の必要性等の意識啓発、学校における系統的な指導の充実を図るため、引き続き、教職員を対象とした研修を行う。なお、研修会の開催方法は、大人数による参集型の一斉研修会以外にも、各地区別や校種別等、状況に応じてより実践につながる方法を検討していきたい。
- ・ 2年計画で実践した「がん教育推進チーム」のメンバーが、今後、それぞれの地区（学校）等で、がん教育推進リーダーとして、積極的に情報発信をしていく機会をサポートしていきたい。
- ・ 実践事例集や映像資料等を通して、推進モデル校が実践した具体的事例を普及啓発し、各学校が取り組みやすいがん教育のモデルプランの提示を行っていききたい。
- ・ 家族にがん患者がいる生徒や家族をがんで亡くした生徒、治療中の生徒等への具体的な配慮例について共通理解を図り、教師も生徒も安心して授業を進めることができるよう研修の充実を図る。
- ・ 外部講師の積極的な活用につながる体制を整備していく。



伝える側の教師が、「がん」という病気をひとつの「疾病」として理解するだけではなく、病気を取り巻く様々な背景について思いをはせることができるよう、「がんサバイバー」「家族会」「がん専門医」や「病院ボランティア」など、いろいろな立場の方の声を聞く機会を大切にしていきたい。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

外部講師を活用した授業実践

令和3年度の「がん教育実施状況調査」では、外部講師を活用したがん教育を実施した学校は、小学校272校中6校・中学校129校中7校・高等学校53校中1校という結果であった。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、外部講師との連携は難しい面もあった中ではあるが、今後、積極的に情報発信をしていき、各学校における実践へとつなげていきたい。

がん教育推進リーダーの活用

2年間、中学校の保健体育科教員4名で「がん教育推進チーム」を編成し、がんサバイバーの方や病院ボランティアの方の話を聞いたり、互いの授業を参観し合ったりする中で、「持続可能なモデルプラン」を協議してきた。この4名が、それぞれが在籍する県内各地区において、積極的に授業公開や助言等の情報発信をする機会を確保し、各学校の実態に応じたがん教育の推進（実践）へとつなげていきたい。

1. 事業の具体的内容について

(1) 教育委員会における取組

① 協議会について

○ 令和3年度福岡県がん教育推進委員 構成員

県医師会の医師1人、大学教授2人（がん専門医師1人含む）、保健所長（保健監）1人、県保健医療介護部がん感染症疾病対策課1人、がん患者団体代表1人、県小学校体育研究会会長（学校長）1人、県中学校保健体育研究会会長（学校長）1人、県高等学校保健体育研究部会会長（学校長）1人、県高校教育課指導主事1人、県義務教育課指導主事1人、教育事務所指導主事2人、事務局（体育スポーツ健康課）5人

○ 検討時期、内容

第1回協議会：7月21日（水）

【説明】 ・平成26年度から令和3年度の実施及び令和3年度の事業について

・がん教育推進委員会について

【協議】 ・がん教育指導者研修会について（対象者、研修内容等）

・外部講師依頼に関する相談窓口の設定について

第2回協議会：2月22日（火）

【報告】 ・外部講師派遣事業について

・がん教育指導者研修会について

【協議】 ・令和4年度の事業について

② 外部講師派遣事業

市町村立小学校（政令市を除く）・義務教育学校（前期課程）・特別支援学校及び県立学校へ外部講師を派遣し、がん教育を推進した。（8校へ派遣）

○うきは市立吉井小学校

令和3年8月30日 職員研修（教職員18人） 講師：がん経験者

＜職員研修の内容＞

・がんや病気の予防、早期発見の方法などについての知識と、がん患者の方の思いを聞き、命の大切さを学ぶ学習がどのように展開されているのかを学んだ。



○福岡県立大川樟風高等学校

令和3年10月6日 特別活動（生徒28人、教職員9人） 講師：医師

＜学習の内容＞

・がんとはどのような病気か ・我が国におけるがんの現状 ・がんの予防
・がんの検診と早期発見 ・生活習慣の大切さ

○那珂川市立安徳北小学校

令和3年10月15日 特別活動（児童111人、教職員3人） 講師：がん経験者・看護師
＜学習の内容＞

- ・我が国におけるがんの現状
- ・がんとはどのような病気か
- ・がんの予防
- ・早期発見と早期治療の大切さ
- ・生活習慣の大切さ
- ・いのちの大切さ

○福岡県立福岡講倫館高等学校

令和3年12月9日 看護：人体と看護（生徒29人・教職員1人） 講師：がん経験者・看護師
＜学習の内容＞

- ・がんのメカニズム
- ・がんの予防
- ・生活習慣病の予防
- ・将来医療関係者を目指す生徒へのメッセージ
- ・いのちの大切さ

○芦屋町立山鹿小学校

令和3年12月10日 体育科（児童112人・教職員8人） 講師：大学教員（看護）
＜学習の内容＞

- ・がんに関する知識
- ・がんの予防
- ・早期発見と早期治療の大切さ

○福岡県立折尾高等学校

令和3年12月13日 特別活動（生徒193人・教職員11人・保護者1人） 講師：薬剤師
＜学習の内容＞

- ・がんとはどのような病気か
- ・がんと生活習慣の関連について
- ・がんの予防

○福岡県立玄洋高等学校

令和3年12月22日 特別活動（生徒31人・教職員1人） 講師：がん経験者・看護師
＜学習の内容＞

- ・がんに関する知識
- ・我が国におけるがんの現状
- ・がん経験者の経験を通した「命の大切さ」「時間の大切さ」「ひとのあたたかさ」

○篠栗町立篠栗小学校

令和4年2月24日 総合的な学習の時間（生徒66人・教職員2人） 講師：看護師（がん経験者）
＜学習の内容＞

- ・がんとはどのような病気か
- ・自身の経験を通した気持ちや生活、周囲の人とのかかわり

③ がん教育に関する研修会の実施

○福岡県立高等学校保健体育科主任会での周知：5月12日 オンライン研修 【参加人数：124人】

県立学校等の保健体育科主任を対象に、がん教育の説明を行い、がん教育指導資料等の活用を促した。

○県立学校等保健主事研修会での周知：5月20日 オンライン研修 【参加人数：152名】

県立学校等の保健主事を対象に、がん教育の説明を行い、がん教育指導資料等の活用を促した。

○がん教育指導者研修会：10月29日 オンライン研修 【参加人数：194名】

・講演

講師：日本女子体育大学 教授 助友 裕子 氏

「学校におけるがん教育の基本的な考え方
～カリキュラム・マネジメントの視点から考える
年間指導計画の作成と実施～」

・パネルディスカッション

「『がん教育』を実施した成果と実施上の課題」を
テーマに、実践発表（5名）の後、協議を実施した。



④ 保健部局や地域の専門機関等との連携

県保健医療介護部がん感染症疾病対策課が平成30年度から実施している、公立中学校への外部講師派遣事業を含む「がん教育を通じた大切なひとからのメッセージカードによるがん検診受診勧奨事業」の実施について協議を行うなど連携を図った。

2. 事業の達成度について

<成果>

① がん教育推進委員会

成果：がん教育指導者研修会の実施について、様々な立場の委員から意見をいただき、研修会の充実を図ることができた。また、学校が外部講師を依頼する際の相談体制の整備について検討することができた。本県のがん検診受診率等の現状と照らし、がん教育の重要性を再認識するとともに、今後の取組について課題を共有することができた。

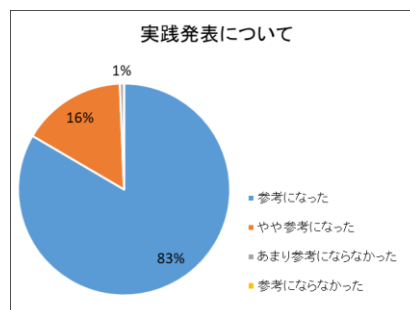
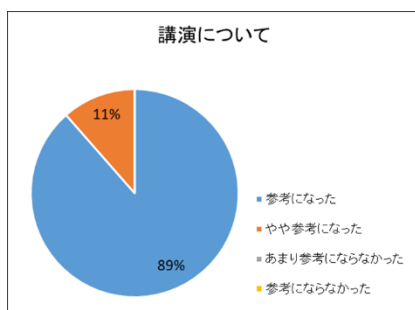
② 外部講師派遣事業

成果：実施校（小学校4校、県立高等学校4校）において、医療従事者やがん経験者等による授業や講演を通して、正しい知識や健康・命の大切さ、がん経験者等に対する正しい認識を持たせることができた。

③ がん教育指導者研修会

成果：体育科・保健体育科をはじめ、道徳科、特別活動等における指導について、年間指導計画に基づく指導のあり方や、個別に行う配慮の具体について普及・啓発を図ることができた。

<がん教育指導者研修会 研修後アンケート結果>



<研修後アンケートの自由記述>

- ・ がん教育について新たな発見がたくさんあった。がんになった人みんなに原因があるわけではないということは、特に教える上で押さえておかなければならないと思った。
- ・ 「がんは治らないものである。」という誤った考えをなくし、どのようにして疾病のリスクを下げるかなどを伝えていきたい。参考教材等も含め、大変勉強になった。
- ・ がん教育は特別に授業時間を確保しないといけないものだと考えていたが、色々な教科からアプローチできるのだということを知り、がん教育へのハードルが下がった。
- ・ 多くの人が当事者であるからこそ授業をする意味があり、また難しさもあると思う。学校で何もかもするのではなく、外部講師の力を借りて実施することが大切だと思った。
- ・ がん教育を実施するにあたって不安なことは、どれだけ状況を把握して配慮を検討できるかということである。各学校の実際の取組を聞くことができてよかった。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

<令和3年度の実践から>

○令和元年度に作成し各学校に配布した「福岡県がん教育指導資料集」を周知するとともにその活用を促す。

→「福岡県がん教育指導資料集」について、改めて各種研修会等での周知を徹底する。特に、学校でがん教育を行う際には、年間指導計画に基づき、体育科・保健体育科の内容と他の教科の内容とを関連付けて行うことや、配慮が必要な児童生徒への配慮の具体について、資料集を参考に取組を進めるよう普及を図っていく。

○外部講師の活用の割合が低かったため、外部講師の積極的活用を促す。

→様々な研修会において具体的な活用例を校種ごとに示すなどし、がん教育において外部講師を活用することの有効性について周知するとともに、積極的な活用を促していく。

また、実際に外部講師を活用した実践と授業等を受けた児童生徒等の様子を紹介し、その教育的価値について普及・啓発を図る。

→がん教育指導者研修会において、外部講師の活用について具体例を取り上げて研修を行う。

<令和4年度の取組>

令和4年度も引き続き「がん教育総合支援事業」を申請し、上記の課題について解決に向けての方策を示すために、下記を実施する。

○がん教育推進委員会の設置（年2回開催）

○外部講師派遣事業の対象は33校で実施（小学校16校、県立学校17校）

○教職員等を対象とした研修会の実施

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全13名

がんの専門医、医師（佐賀県医師会）、佐賀県PTA連合会事務局長、NPO法人事務局長（がん患者サポート団体）、大学准教授、がん患者会代表、健康増進課がん対策推進担当、推進校高等学校長、推進校中学校長、推進校小学校長、推進校管轄教育委員会指導主事、推進校管轄教育事務所指導主事、保健体育課長

2. 開催時期、検討内容

【第1回】令和3年8月24日（火）

協議内容

- 令和3年度 がん教育に関する計画について
- 各推進校の「がん教育総合支援事業に関する推進計画」について

【第2回】令和4年1月31日（月）

協議内容

- 令和3年度がん教育総合支援事業報告について
- がん教育の推進校の実践報告
- 事業の取組評価
 - ・発達段階や学校の実情に応じた内容の検討について
 - ・主体的に取り組むがん教育について
 - ・がん教育の外部講師について（人員確保、予算化、質の向上）
 - ・がん教育の教材について（動画・指導資料のパッケージについて）

② 教育委員会としての取組

県教育委員会では、がんに対する正しい理解とがん患者に対する正しい認識及び命の大切さについて考える態度の深化を図ることを目的として、「がん教育に関する計画」を策定し、がん教育を推進している。

令和3年度においては、モデル的な取組を行う推進校として、佐賀市立久保泉小学校、佐賀市立金泉中学校、佐賀県立佐賀商業高等学校を指定し、教材、学習指導案等の作成及び授業の実践、公開を行うことで、県内学校におけるがん教育の推進を図った。

また、がん経験者及びがんの有識者を講師として、がん教育指導者研修会をオンデマンドで開催し、教職員や外部講師の資質の向上を図った。

さらに、県内の公立学校21校にのべ37名の外部講師を派遣し、児童生徒を対象とした講演会等を実施する等してがん教育の推進を行った。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- 推進校において開催した講演会や授業では、がん教育に関する協議会委員である、佐賀国際重粒子線がん治療財団理事長、佐賀県健康づくり財団ピアサポーターや、がん診療連携拠点病院の佐賀大学医学部附属病院及び佐賀県医療センター好生館の医師、看護師、また、がん対策NPOクラブスサポートから講話をしていただいた。
- 県内の公立学校21校への外部講師派遣については、がん診療連携拠点病院やがん対策NPOクラブスサポートと連携し、がんの専門医やがん経験者による講話を行うなど、授業において活用することができた。また、がん教育に関する協議会委員の協力を得て、がんの専門医や地域のがん体験者等の外部講師を推進校にスムーズに派遣することができた。
- がん対策NPOクラブスサポート主催のがん教育支援員養成講座（がん体験者及びその家族、がん教育に関心のある方対象）において、県教育委員会より佐賀県におけるがん教育の取組について説明を行った。
- がん診療連携拠点病院である佐賀大学医学部小児科の医師に対して、県教育委員会より佐賀県におけるがん教育の取組について説明を行った。
- がん教育指導者研修会において、健康増進課がん撲滅特別対策室より県のがん対策について説明していただいた。

(2) モデル校における取組

◎印は外部講師を活用した授業、※太字は公開授業

① 小学校の取組

佐賀市立久保泉小学校

佐賀市立久保泉小学校においては、「健康」について関心をもち、健康増進にすすんで取り組む児童の育成をめざして」をテーマに、自分の命や健康の大切さに気づき、健康的な生活習慣を身に付け、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成することを目指し、授業実践を行った。

【特別活動】

・「じょうずな手洗い」 対象学年：1年・・・1時間

・「えいようのバランスについて考えよう」

対象学年：2年・・・1時間

・「バランスよく食べよう」 対象学年：3年・・・1時間

・「生活習慣を見直そう」 対象学年：4年・・・1時間

◎「がん教育講演会」 対象：4年～6年

講師：佐賀県医療センター好生館 医師

【道徳】

・「かけがえのない命について考えよう」

対象学年：5年・・・1時間

【総合的な学習の時間】

・「見直そう生活習慣 見つめよう大切な命」

対象学年：6年・・・1時間



②中学校の取組

佐賀市立金泉中学校

佐賀市立金泉中学校においては、「がんに関する正しい知識を深め、患者やその家族の心情を理解し尊重する態度を養い、自らの生活習慣を積極的に改善していく態度を育む教育の実践」をテーマに、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していくことのできる生徒の育成を目指し、授業実践を行った。

【保健体育科】

- ・「生活習慣病の予防」 対象学年：2年・・・1時間
- ・「喫煙の健康への影響」 対象学年：2年・・・1時間
- ・「飲酒の健康への影響」 対象学年：2年・・・1時間
- ・「がんの予防」 対象学年：2年・・・1時間

◎「がんについての調べ学習及び発表会」

対象学年：2年・・・6時間

講師：佐賀県国際重粒子線がん治療財団 理事長
ゆうかり医療療育センター 医師

【道徳】

- ・「そんな軽い命なら私に下さい」 対象：2年生・・・1時間

【特別活動】

◎「がん教育講演会」

対象：全学年・・・1時間

講師：NPO法人クラブサポート がん経験者2名



③高等学校の取組

佐賀県立佐賀商業高等学校

佐賀県立佐賀商業高等学校においては、「自ら考え、行動できるがん教育の実践を目指して～がん教育の中心にSDGsの理念を据えて～」をテーマに、がん教育をSDGsの理念と関連付けて、学校全体で教科横断的に取り組んだ。

【特別活動】

◎「がん教育講演会」

対象：全学年・・・・・・1時間

講師：佐賀大学医学部 小児科医師

佐賀県健康づくり財団ピアサポーター

◎「SDGs×がん教育講演会」

対象：全学年・・・・・・1時間

講師：NPO法人地球市民の会 理事

【家庭科】

◎「がん教育公開授業」

対象：1年生・・・・・・1時間

講師：県教育委員会指導主事（管理栄養士）

【選択科目・学校設定科目】

◎「減塩乳和食講習会」

対象学年：3年保育選択者及びグローバルビジネス科
・・・・・・2時間

講師：佐賀県牛乳普及協会

◎「味噌づくり体験」

対象学年：グローバルビジネス科3年・・・・・・2時間

講師：地域人材「ふるさと先生」

◎「豆腐作り体験」

対象学年：グローバルビジネス科3年・・・・・・2時間

講師：地域人材「ふるさと先生」

【生徒会活動】

・がんのチャリティー募金活動

対象：全学年及び保護者、地域住民

協力：リレー・フォーライフ・ジャパン



2. 事業の達成度について

推進校では、各学校、学年の実態に合ったがん教育を実施し、児童生徒へがんやがん患者とその家族等に対する正しい理解へ向けて取り組んだ。授業づくりや教材等の作成については、事前にアンケートを取り、児童生徒のがんに対する疑問や考えを基に、授業を組み立てた。児童生徒向けのアンケートの「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」の項目では、事前は、「そう思う」が81.7%だったが、事後は89.4%に増加していた。「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」の項目では、事前は、「そう思う」が65.3%だったが、事後は74.2%に増加していた。また、「がんになっても生活の質を高めることができる」の項目では、事前は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が64.9%だったが、事後は78.3%に増加していた。児童生徒が、がんに対する理解を深め、がん患者やその家族の意思決定や生き方について多角的に思考することができた。

なお、カリキュラム・マネジメントを通して教科等横断的ながん教育を行うことはもちろんのこと、専門家の話を聞くだけの受け身の講演会や授業だけでなく、児童生徒が主体的に学ぶがん教育を実践することで、学びの深化を図ることができた。

県東部地区の教職員を対象にしたがん教育指導者研修会では、がんの有識者としてNPO法人Coco音事務局長、がん経験者としてNPO法人キャンサーサポート前代表理事を講師として招へいた。教職員への事後アンケートでは、「がん教育について理解が深まったか」の項目において、全体の約94%が「かなり深められた・深められた」と回答している。

外部講師派遣については、協議会委員、がん診療連携拠点病院、NPO法人等の協力を得て、県内の小学校を含む公立学校21校にのべ37名の外部講師を派遣し、その取組を文部科学省主催のがん教育シンポジウムで事例発表し、全国に発信することができた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

推進校の実践や外部講師派遣、がん教育教材パッケージの配布などの取組みを行ったことで、県内のがん教育の普及はずいぶん進んできたと感じる。しかし、専門家の授業や講演を聞くだけの受け身のがん教育がまだまだ多い状況である。がん教育は、がんについての正しい知識を身につけるだけでなく、児童生徒が自分の事としてとらえ、行動変容していくことが大切である。そこで、今後は児童生徒が主体的に学ぶがん教育を進めていく必要がある。そのためにも、主体的に学ぶがん教育のモデルケースである推進校での取組を県内に広めていくことが重要である。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

（1）教職員の研修

教職員のがん教育に関する理解、がんについての基本的知識や情報収集に関して、保健部局や医療関係者、がん経験者の活用及び連携を行う。

（2）外部講師リストの公開

県内の各学校での外部講師の活用を推進していくためには、外部講師のリストを公開し、各学校が自ら外部講師へアプローチできるような体制づくりを行う。

（3）がん教育授業用教材パッケージの動画サイトへのアップ

推進校や外部講師派遣を利用する学校以外へのがん教育の推進のため、今年度作成した、外部講師の動画やパワーポイント、授業のマニュアル等の資料をパッケージにした「がん教育教材パッケージ」を動画サイトへアップし、各学校がよりがん教育に取り組みやすい環境づくりを行う。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員 全員で13人

<内 訳>

県医師会1人（内科・外科・小児科専門）、大学教授1人、がん患者支援団体2人、PTA1人
校長3人、養護教諭2人、市教委1人、県衛生主管部局1人、県教委1人

2. 開催時期、検討内容

○第1回（8月18日 WEB開催）

- ・がん教育の課題やねらい等の共通理解
- ・具体的取組計画の指導・助言（がん教育指導者研修会の実施や外部講師派遣の実施、先進的な取組事例の周知、がん教育外部講師リストの拡充等）

○第2回（1月28日に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大状況に鑑み、書面開催）

- ・令和3年度事業報告
- ・取組成果の検証及び次年度事業計画の検討等

② 教育委員会としての取組

○がん教育指導者研修会Ⅰ（10月12日 WEB開催） 講師：県衛生主管部局医師

- ・がん教育推進の中心を担う管理職や保健主事及び養護教諭等の学校職員、外部講師となりうる医師・看護師・保健師やがん患者支援団体を対象に実施した。
- ・参加者91名（内訳：学校関係者73名、医療関係者18名）

○がん教育指導者研修会Ⅱ（1月28日 WEB開催） 講師：社会福祉法人副施設長 医師

- ・令和4年度から学習指導要領が年次進行で実施される高等学校及び特別支援学校高等部保健体育科主任の指導力向上を図るため実施した。
- ・参加者101名

○がん教育の推進に向けた先進的な取組の事例発表（10月12日 WEB開催）

- ・発表者：平戸市立小学校養護教諭
- ・各学校における取組の参考となるよう、研修会において前年度推進校の実践発表を実施した。

○がん教育外部講師派遣（小学校6校、中学校3校、高校1校 計10校）

- ・希望する学校へ外部講師を派遣し、地域のがん教育推進校として講演会等を実施した。

○外部講師を活用したがん教育の先進的な事例の周知

- ・各推進校における講演会等の状況や児童生徒の変容を県のホームページに掲載し、各学校の取組の参考とした。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・学校への外部講師派遣については、教育委員会で希望をとりまとめ、講師の調整は関係機関に依頼し、派遣している。

- ・保健部局については、「がん診療連携拠点病院」からの外部講師（がん専門医、看護師等）の依頼について担当している。
- ・県医師会とは、講師の派遣を依頼できる連携体制が構築できている。
- ・がん患者支援団体と情報交換を行い、今年度初めて外部講師として依頼し、小学校へ派遣した。
- ・保健所から研修会への参加者はいるが、コロナ禍もあり、講師の依頼までには至っていない。
- ・保健部局と連携し、外部講師派遣リストの拡充を図った。

（２）モデル校における取組

＜小学校 6 校、教科：特別活動、体育＞

- 長崎市立西坂小学校（５・６年）
 - ・放射線科医師による講演会の実施
 - ・テーマ「がんの授業」
- 長崎市立神浦小学校（全学年）
 - ・がん経験者による授業の実施
 - ・テーマ「『がん』ってどんな病気？」
- 壱岐市立三島小学校（４・６年）
 - ・がん専門看護師による講演会の実施
 - ・テーマ「がんの基礎知識と予防について」
- 壱岐市立那賀小学校（５・６年）
 - ・医師による講演会の実施
 - ・テーマ「がんについての正しい知識と健康と命の大切さについて理解する」
- 雲仙市立鶴田小学校（６年）
 - ・医師による授業の実施
 - ・テーマ「健康と命の大切さ」
- 東彼杵町立彼杵小学校（６年）
 - ・医師による講演会の実施
 - ・テーマ「心身ともに健康な生活をおくるために大切なこと」



＜中学校 3 校、教科：保健体育、道徳＞

- 長崎市立日見中学校（全学年）
 - ・がん経験のある医師による講演会の実施
 - ・テーマ「命の役割」
- 長崎市立琴海中学校（２年）
 - ・がん専門医による講演会の実施
 - ・テーマ「がん教育を通して、命と健康について考えよう」
- 西海市立平島中学校（１・３年）※WEB開催
 - ・がん専門看護師による授業の実施
 - ・テーマ「がん患者に対する正しい認識を通して、命の大切さを考える」



＜高等学校1校、教科：特別活動＞

○県立大村城南高等学校（全学年）

- ・医師による講演会の実施
- ・テーマ「我が国のがんの現状とがん患者への理解と共生」

県衛生主管部局と連携し、学校の希望に可能な限り沿う形で講師を選び、派遣したことで、がんへの正しい理解や望ましい生活習慣、自他の命の大切さについて学びを深めることにつながった。

全10校のモデル校とも、家族にがん患者がいるなどの配慮が必要な事項に留意して実践するとともに、保護者に対しては事前に講演会の開催について周知した。また、外部講師との打合せを綿密に行うとともに、児童生徒には事前と事後に、職員には事後にアンケート（文科省様式）を実施し、取組後の変容把握に努めた。



（3）その他 ・特記事項なし

2. 事業の達成度について

- ・第2回協議会については書面開催となったことで、協議が十分に行えず、学校の取組に対する振り返りや次年度に向けての支援体制の検討を深めることが困難であった。
- ・がん教育指導者研修会については、がんの要因や長崎県のがんの状況に関することなど、わかりやすい講演内容であったため、受講者の理解度は「理解できた」81.6%、「やや理解できた」18.4%と高評価を得た。また、Web開催については、離島部からも参加しやすいと歓迎する声が多かった。
- ・がん教育の推進に向けた先進的な取組の事例発表として、研修会において、令和2年度の外部講師派遣校に自校の取組を発表してもらった。本実践発表における受講者の理解度は「理解できた」94.7%、「やや理解できた」5.3%と高評価であった。発表を聞き、『取組が難しそう』から『自校でも取り組みたい』に変わりました」という感想もあり、実践意欲につながる効果的な発表となった。
- ・がん教育外部講師派遣については、当初の計画通り10校へ派遣することができた。児童生徒に対するアンケートでは、「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」の問いに「そう思う」と答えた児童生徒が、実施前74.9%から実施後92.1%に増加した。また、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」が、実施前54.8%から実施後71.3%に、「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」が、実施前67.0%から実施後85.0%にそれぞれ増加するなど、顕著な変容が見られ、大きな成果が得られた。児童生徒の感想の中には、「がんにならないように生活習慣を見直し、命を大切にしたい」や「今日聞いた話を家族にも伝えたい」といった内容が記されており、がんに対する正しい認識や命の大切さを考える機会になったことがうかがえる。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、保健所を含めた新たな外部講師リストの拡充が図れなかった。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・がん教育指導者研修会については、次年度以降も Web 開催とする予定である。今年度は、接続のトラブルや不慣れから受講できなかった参加予定者もいたため、要項への確実な明記の仕方等、接続に関する周知方法を工夫したい。また、外部講師の候補となる医療従事者やがん経験者の参加をどう広げていくか、協議会における検討が必要である。
- ・外部講師派遣については、児童生徒の実態に応じた課題を見極めることが大切であり、そのためには事前の綿密な講師打合せが必要である。今年度は、コロナ禍で直前まで講師が確定せず、十分な打合せができない派遣校もあったため、次年度は県衛生主管部局や県医師会とさらに連携し、講師の選定を急ぎたい。また、講師派遣時は対面での開催を基本としているが、コロナ禍でも対応できるよう、ICT を活用した授業づくりについても研究を深めたい。
- ・外部講師リストについては、がん診療連携拠点病院及びがん患者支援団体等のみのリストとなっているため、各学校や各市町教育委員会が効果的に活用できるよう、専門医の特性を踏まえたリストの整備を進めたい。
- ・協議会の書面アンケートに、「私立学校を含めたがん教育の推進をお願いしたい」という意見が寄せられた。関係課との意見交換を行い、検討していく必要がある。
- ・令和3年度事業は国費のみであった。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・本来であれば、モデル校における取組は、その地域で公開・共有することを原則としているが、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により困難であった。各学校における実践の参考となるよう、研修会やホームページ等において先進的な取組の実践発表や紹介を継続していきたい。
- ・教科におけるがん教育の充実を図るためには、まずは保健体育科教員が、がんについての知見を広げる必要がある。がん教育指導者研修会の参加者は、保健主事や養護教諭が大半を占めている現状であるため、保健体育科教員の参加を増やすための取組が必要である。今年度は学習指導要領改訂を踏まえ、高等学校保健体育科主任を対象とした研修会を実施した。次年度は、学校への派遣だけでなく、市町教育委員会主催の教職員を対象とした各種部会や研修会への外部講師派遣も検討していきたい。
- ・自校における健康課題の解決を図るための学習が優先となり、がん教育への取組は学校間や校種間で温度差がある。今後も関係機関との連携を密に図りながら、がん教育推進のための教材や補助教材の効果的な活用を促し、質の充実を図っていきたい。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

ア 構成員（14人）

医師(がん専門医)1人(内科)1人, 保健所長1人, NPO法人(がん経験者)1人, モデル校(学校長, 養護教諭)2人, 養護教諭代表2人, 県保健福祉部健康増進課係長1人, 関係市教育委員会指導主事1人, 県教育庁義務教育課指導主事1人, 人権同和教育課指導主事1人, 保健体育課長1人, 保健体育課指導主事1人

イ 開催時期、検討内容

○ 第1回鹿児島県がん教育総合支援事業連絡協議会(14人)※書面開催

令和3年度の協議会のがん教育推進計画やモデル校における実践等の確認, 外部講師リストの作成及び派遣に係る提案等を行った。

○ 第2回鹿児島県がん教育総合支援事業連絡協議会(13人)※オンライン開催

がん教育推進計画やモデル校における実践・アンケート結果分析, 外部講師リストの作成及び派遣に関する報告, 成果と課題の検証, 次年度に向けての懸案事項等について協議した。

② 教育委員会としての取組

ア 研修会及び講演会の開催

新学習指導要領を踏まえたがん教育について, 実施する上での留意事項や効果的な進め方, がん教育推進のための教材(文部科学省改訂)の活用, 外部講師の活用等について理解を深めるための研修会を開催した。

○ 第1回研修会(6月, 7月: 県内2地区保健体育教員を対象)【参加者: 170人】※オンライン開催

○ 第2回研修会(8月: 県内市町村教育委員会指導主事を対象)【参加者: 32人】※オンライン開催

○ 第3回研修会(10月: 管理職, 養護教諭, 学校医等を対象)【参加者: 80人】※オンライン開催

○ モデル地区(霧島市)がん教育講演会(11月: 養護教諭を対象)【参加者: 52人】※オンライン開催

○ モデル校(牧之原中学校)職員研修会(2月: モデル校職員対象)【参加者: 13人】※オンライン開催

イ がん教育推進モデル校の指定

がん教育を推進するモデル校として, 霧島市立牧之原中学校を指定し, がん教育を推進する取組を実施, その成果や課題について検証した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

ア がん教育外部講師リストの作成【別添1】

衛生主管部局と連携し, 県・地区三師会や地域のがん診療連携拠点病院, がん経験者の団体等の協力を得ながら, 外部講師のリストを作成した。

【外部講師リスト作成のための協力依頼団体】

- ・ 県三師会(県医師会, 県歯科医師会, 県薬剤師会) ・ 地区三師会 ・ がん診療拠点病院
- ・ 県民総合保健センター ・ 緩和ケアセンター ・ 県内保健所 ・ 県くらし保健部健康増進課
- ・ NPO法人がんサポートかごしま等

イ リストを活用した学校授業への派遣【別添2】

リストをもとに, 県内の小・中・高等学校20校にがん専門医やがん患者等の外部講師の派遣を行った。

【外部講師派遣までの流れ】

- ① 県内の全小・中・高等学校・特別支援学校への希望調査（講師の職種や希望日時等に関する調査）
- ② 希望調査の集約及び派遣校の決定
- ③ 外部講師との日程調整，学校におけるがん教育授業実施に当たっての留意事項等の周知
- ④ 学校授業への派遣

（2）モデル校における取組

ア がん教育公開授業及び授業研究（令和4年11月8日）

【参加者：18人】※オンライン授業

- 実施教科 道徳科
- 授業者 担任，養護教諭，外部講師（がん患者）
- 内 容

がん患者として，自身の経験や最後までがんに向き合い，命を燃やした方の事例をもとに，がんについて正しく理解するための知識理解と命の大切さや共生についての授業を行った。授業後には，参加者全員で公開事業の成果・課題等について協議・検証した。

イ 「生命について考える週間」の設定（令和4年11月8日～15日）

「生命について考える週間」を設定し，がんをはじめ，その他の病気や人間関係等，生命尊重に関する学習を関連付けながら集中的に学習を行った。

【週間中の取組】

- sos の出し方に関する学習（自殺予防教育）
講師：大学客員研究員
- 血液講話
講師：学校薬剤師
- 校長講話
校長講話及び命に関するDVDの視聴
- 生命に関する図書コーナーの設置



公開授業（オンライン）



SOS の出し方に関する学習



生命に関する図書コーナー

2. 事業の達成度について

1 協議会

- (1) 外部講師のリスト作成について，協議会の中で出された意見等をもとに，医師会や保健所所長会等に出向き積極的な協力要請を行った。協議会委員の協力を得て，リストを作成できたことは大きな成果であった。

(2) 県教育委員会

ア がん教育に関する研修会の実施

新学習指導要領を踏まえたがん教育の目的や背景，進め方，留意事項，教材（文部科学省作成）の活用等について広く周知することができた。また，医師やがん患者を講師として招聘し講義を行ったことで，外部講師を活用した授業の効果等について周知することができた。

【研修会参加者の感想】（一部抜粋）

がん教育をどのように進めていけばよいかわからない不安があったが，がん教育の背景や実践の配慮事項等について細かく知ることができた。また，がん教育を指導していくに当たっての授業展開例や外部講師を活用しての授業の効果等が分かり，大変勉強になった。

【研修会参加者の感想】（一部抜粋）

がんについての正しい理解と命の大切さ，精一杯生きることの素晴らしさを感じ，子供たちがより良く生きるためにも，とても大切な教育であることが分かった。これを本校で具体的に推進していくためにも，共通理解を図る必要を感じた。積極的に取り組んでいきたいと思う。

イ モデル校以外への外部講師の派遣

これまでのがん教育外部講師派遣は，モデル校に限ったものであったが，本年度，リストを作成したことに伴い，県内20校に対し派遣を行ったことは大きな成果であった。

(3) モデル校

ア 生徒のアンケート結果

【Q 1ーa がんの学習は健康な生活を送るために重要だ】

(事業実施前)

(単位：人)

(事業実施後)

(単位：人)

そう思う	23
どちらかといえばそう思う	4
どちらかといえばそう思わない	0
思わない	0
無回答	0



そう思う	25
どちらかといえばそう思う	1
どちらかといえばそう思わない	1
思わない	0
無回答	0

【Q 1ーb がんの学習は健康な生活を送るために役立つ】

(事業実施前)

(単位：人)

(事業実施後)

(単位：人)

そう思う	23
どちらかといえばそう思う	3
どちらかといえばそう思わない	1
思わない	0
無回答	0



そう思う	26
どちらかといえばそう思う	1
どちらかといえばそう思わない	0
思わない	0
無回答	0

イ 授業後の生徒の感想

今日は、「がん」と「命」について、とても将来に役立つことをいろいろと教えてもらいました。僕は特に心に残ったことが二つあります。一つめは、「がん患者はつらくない」ということです。僕はずっとがんになるとつらいものだと思っていましたが、お話を聞いて、がん患者さんは「つらい人」ではなく「頑張っている人」なんだなあと思いました。二つ目は、「生きているだけで金メダル」という言葉です。僕は時々、不幸だなと思うことがあります。でも、世の中には生きたくても生きられない人がいることが分かりました。なので、これからはつらいことや悲しいことがあっても一回きりの人生なので楽しんでいこうと思いました。ありがとうございました。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- (1) がん教育研修会を通して、多くの教職員に対して学習指導要領に基づくがん教育について周知することができた。各種研修会等をさらに充実させ、教職員の資質向上を図るとともに、より多くの外部講師を確保し、多くの学校に講師を派遣するなど、がん教育の充実に努める必要がある。
- (2) 外部講師の育成を目的とした研修会ができなかった。本年度、リストへの登録者も多数確保できたことから、来年度は登録者等を対象とした研修会を実施する必要がある。
- (3) 本年度の会議や研修会、授業派遣は、全てオンラインで実施した。会場までの往復等の時間短縮、旅費等の削減につながり利点もあるが、講師からは、相手の表情や反応が分からずやりにくいといった意見も出された。オンラインでの研修会や授業の在り方等について検証する必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- (1) ホームページを更新・活用し、先進的な取組や教材活用等の情報発信を積極的に行い、がん教育の普及・啓発に努めたい。
- (2) 令和4年度には県衛生主管部局と連携して、鹿児島県版のがん教育副教材を作成予定である。県内の学校に広く周知し、その活用を促したい。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で 17 人

〈内訳〉

医師 2 人（腫瘍内科 1 人、内科（学校担当） 1 人）、県衛生主管部局 1 人、県がん患者会 1 人

保健体育教諭 2 人（中学 1 人、高等学校 1 人）、教諭 1 人（小学校）、

校長 3 人（小学校 1 人、中学 1 人、高等学校 1 人）、県総合教育センター 2 人、県教育委員会 5 人

2. 開催時期、検討内容

【第 1 回沖縄県連絡協議会】日時：令和 3 年 7 月 14 日（水）（オンライン開催）

(ア)本年度の目標

(a) 県内の学校におけるがん教育実施率の向上 (b) 教職員・関係者等へのがん教育の普及・啓発

(c) 外部講師等の活用等による、命と向き合う効果的な指導方法の実践研究

(d) 令和 4 年度以降の学校におけるがん教育の推進計画

(イ)本年度の主な取組

(a) モデル校教諭を中心とした教材検討委員会を開催し、モデル校で行う授業の効果的な指導方法の検討を行う。

(b) モデル校による公開（検証）授業 (c) 教職員・関係者等への「がん教育研修会」の実施

(d) 研修会における実践発表

(e) 外部講師養成研修（プログラム）の策定・実施

(f) 外部講師の定期的な養成の方性

(g) 令和 4 年度以降のがん教育の推進の検討

【第 2 回沖縄県連絡協議会】日時：令和 4 年 1 月 20 日（水）（オンライン開催）

(ア)令和 3 年度事業報告（がん教育に関する計画の検証・成果報告）

(a) 「がん教育研修会」について

(b) 「がん教育教材検討」の成果について

(c) 「がん教育モデル校」における取組について

(d) 「がん教育外部講師養成プログラム」策定・実施について

(イ)令和 4 年度以降のがん教育の取組の方性

(a) 教職員・関係者等への「がん教育研修会」や各種研修会、行政説明によるがん教育の普及・啓発

(b) 外部講師のリスト化と各学校等への周知

(c) 外部講師養成研修会の実施に向け外部団体との連携

② 教育委員会としての取組

1. がん教育研修会の開催

(ア)目 的

学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動が出来る児童生徒を育成し、がん教育を進めていく。教職員及び外部指導者等を対象とした「がん教育研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方について研修を行う。

(イ)日 時：令和 3 年 7 月 26 日（月）13:30～16:10

(ウ)対 象

小・中・県立学校の保健体育担当教諭、保健主事、その他の教職員、各市町村教育委員会担当指導主事、各教育事務所担当指導主事、外部講師によるがん教育に関心のある方（医師・学校医・がん患者・経験者等）

(エ)研修方法：Web 会議システム ZOOM を活用したオンライン研修

(オ)申込人数：104 人 内訳（教諭 29 人 養護教諭 69 人 学校三師 2 人 がん患者等 4 人）

(カ)内 容

(a) 講義 I 「学校におけるがん教育の効果的な進め方」

講師 日本女子体育大学 体育学部健康スポーツ学科
教授 助友 裕子 氏

(b) 講義 II 令和2年度がん教育総合支援事業モデル校実践発表

発表者 那覇市立真地小学校 教諭 兼島 早苗
栗国村立栗国中学校 教諭 久田 昭太
県立南部工業高等学校 教諭 友寄 雅仁

2 がん教育教材検討委員会 (計3回)

(ア) 目的: がん教育教材の効果的な指導方法を検討し、指導参考資料の検討・作成を行う。

(イ) 構成員

医師1人、大学教授1人、沖縄県がん患者団体代表1人、モデル校担当教諭3人、保健体育科教諭3人

小学校教諭1人、総合教育センター研究主事2人、県教育委員会3人、がん教育外部講師(がん経験者)3人

(ウ) 第1回がん教育教材検討委員会 参加グループ: B

日時: 令和3年8月6日(金) 9:00~12:00 オンライン

(a) がん教育総合支援事業沖縄県連絡協議会要綱の確認

(b) 令和2年度の取組

(c) 小・中・高学習指導要領におけるがん教育について

(d) 教材検討のグループ編成及び教材検討

(各モデル校生徒の実態等)

(エ) 第2回がん教育教材検討委員会 参加グループ: B・C

日時: 令和3年9月1日(水) 14:00~17:00 オンライン

(a) モデル校における公開授業・検証授業について

(外部講師との打合せ)

(b) 小・中・高各グループ作成の指導案検討

○モデル校の生徒の実態 ○学習内容の絞り込み

○指導の工夫(教材の選定)

(オ) 第3回がん教育教材検討委員会

参加グループ: A・B・C

日時: 令和3年10月7日(木) 14:00~17:00

場所: 県庁13階第2会議室

指導助言者: オンライン

(a) 模擬授業(各モデル校: 15分発表+15分協議・指導助言)

(b) 指導・助言・琉大がんセンター長: 増田 昌人

日本女子体育大学教授: 助友 裕子 がん患者団体代表: 島袋 百代

○那覇市立真嘉比小学校: 1時間目(玉城・平良(養護教諭))・2時間目(豊見山)模擬授業→指導・助言

○那覇市立金城中学校: 1時間目(後間)・2時間目(上野)模擬授業→指導・助言

○県立中部商業高等学校: 1時間目(本村)・2時間目(又吉)模擬授業→指導・助言

3 がん教育外部講師養成プログラム策定委員会

(ア) 目的: 学校におけるがん教育において、外部講師として活用が考えられる地域の専門家(がん経験者や医療従事者等)を養成するプログラムの検討を行う。

(イ) 構成員: 一般社団法人全国がん患者団体連合会理事長1人、NPO法人愛媛がんサポートオレンジの会理事長1人、

NPO法人がんサポートかごしま理事長1人、沖縄県がん患者会連合会事務局長1人、

成人・がん看護学教授1人、医師1人、県教育委員会1人

氏名	グループ	目的	所属及び役職	教材検討委員会 回		
				第1回	第2回	第3回
1 増田 昌人	A	指導助言	琉球大学病院がんセンター長	-	-	0
2 助友 裕子			日本女子体育大学教授	-	-	0
3 島袋 百代			NPOパンキャンジャパン沖縄支部長	-	-	0
4 玉城 政宙 (田場大輔)	B	指導案作成・外部講師との連携・検討	那覇市立真嘉比小学校教諭	0	0	0
5 兼島 早苗			那覇市立真地小学校教諭	0	0	0
6 後間 明子			那覇市立金城中学校教諭	0	0	0
7 笠原 健市			県立開成中学校保健体育科教諭	0	0	0
8 砂川 龍馬			那覇市立石田中学校	0	0	0
9 本村 優			県立中部商業高等学校教諭	0	0	0
10 山入端 美和			県立真和志高等学校	0	0	0
11 前城 優子			県総合教育センター研究主事	0	0	0
12 松田佳奈子			県総合教育センター研究主事	0	0	0
13 大城めぐみ			県教育庁保健体育課指導主事	0	0	0
14 奥間あさみ			県教育庁保健体育課指導主事	0	0	0
15 今枝 聖子			県教育庁保健体育課指導主事	0	0	0
16 豊見山 博子	C	外部講師	外部講師	-	0	0
17 上野 浩司			沖縄尚学高等学校・附属中学校(外部講師)	-	0	0
18 又吉 賢弘			外部講師	-	0	0
計				12	15	18

(ウ)日 時: 令和3年8月19日(木) 14:30~15:50 (オンライン開催: 県庁13階 配信)

(エ)内 容

- (a)説明事項(事業計画、プログラム策定委員会について)
- (b)外部講師養成プログラム検討(対象者、募集方法、他府県の取組)
- (c)研修内容(講義、ワークショップ、実施時期)
- (d)外部講師リストへの掲載方法

4 がん教育外部講師のためのオンライン研修会

(ア)目 的

がん教育外部講師養成プログラム策定委員会から提案のあった
プログラムに基づき、外部講師として活用が考えられる地域の専門
家(がん経験者や医療従事者等)から受講者を募集し、外部講師の
養成を行う。

(イ)日 時

(a)(1日目)令和3年11月13日(土) 開場: 講義: 12:40~17:00

(b)(2日目)令和3年11月14日(日) 開場: 講義: 9:55~17:00

(ウ)対象: 沖縄県内在住のがん患者・がん経験者等

(エ)研修方法: Web 会議システム ZOOM を活用したオンライン研修

(カ)内容

令和3年度がん教育外部講師のための
オンライン研修

1 がん教育とは?

第3期がん対策推進計画では「がん教育」の目的について「1.がんについて正しく理解することができるようになる。2.健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようになる」となっています。がんを学ぶことによって、自他の健康と命の大切さについて学び、がんと向き合う人々と共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育が「がん教育」です。

2 なぜ外部講師が必要なの? 沖縄県内での外部講師による授業は?

がん患者・がん経験者の方々から、自身の体験やがんに関する知識を学ぶことは、児童生徒が「がんについて正しく理解することができるようになる」ために、大変意義のあることで、効果的とされています。沖縄県内の小・中・高等学校では、がん教育を実施する学校は増えてきていますが、外部講師を呼び寄せて下さる方がまだ少ないのが現状です。

3 外部講師って「何」を「どう」話せば、いいの?

今回の研修では、「何」を「どう」話せば、いいの?に少しでもお答えできるように講義やワークショップ等、研修内容を選定しています。少しでも興味を持った方、まずは受講してみてください。

【研修について】

日 時: 1日目: 令和3年11月13日(土) 12:40 ~ 17:00

2日目: 令和3年11月14日(日) 9:55 ~ 17:00

*2日間の受講をお断りします。

研修方式: 研修会場システム ZOOM を活用したオンライン研修

講 師: 国立がん研究センターがん対策研究所 事業統括 若尾 文彦

日本女子体育大学 体育学部健康スポーツ学科 教授 助友 裕子

一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長 天野 慎介

NPO 法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾

NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会 理事長 松本 陽子

令和3年度がん教育総合支援事業 がん教育モデル校 外部講師実践者

受講対象: 沖縄県内在住のがん患者・がん経験者(定員: 30名)

*カメラ付き IT 機器で ZOOM の使用が可能です。

*資料は全てメールで配信予定です。

*県教育委員会では、ZOOM 使用に関するサポートはできません。

主 催: 沖縄県教育委員会

協力団体: NPO 法人がんサポートかごしま

申 込: 下記の URL から右記の QR コードから申し込み下さい。

URL: https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=lpv0VJPVSKS1v81u05d70aZ_SLK_u_VF1zX80w-ahpU0k0M1JTWTASS1pSTU1TtU0QIE1TVRSYS5u

申込締切: 令和3年11月1日(月)

担 当: 沖縄県教育庁保健体育課 (奥間)

TEL: 098-866-2726 E-mail: okuma@pref.okinawa.lg.jp



(1日目)

	開始	終了	内容	講師(担当)
	11:45	12:35	1日目研修: 最終打合せ (外部講師養成プログラム策定委員会)	がん教育連絡協議会委員長 琉球大学病院がんセンター長 増田 昌人 一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長 天野 慎介 NPO法人愛媛がんサポート おれんじの会 理事長 松本 陽子 NPO法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾 保健体育課 指導主事 奥間 あさみ 大城 めぐみ
1	12:40	12:55	[ZOOM] オンライン開場	県教育庁保健体育課 指導主事 奥間 あさみ
2	12:55	13:10	開会の挨拶、内容説明	沖縄県教育庁 保健体育課 (進行: 奥間 あさみ) 課 長 城間 敏生 健康体育班長 宮城 敏也
3	13:10	13:25	自己紹介	スタッフ・参加者全員
4	13:30	14:30	講義①「学校におけるがん教育・ 外部講師の果たす役割」	日本女子体育大学体育学部 健康スポーツ学科 教授 助友 裕子
5	14:30	14:50	講義②「沖縄県の学校における がん教育の取り組みについて」	沖縄県教育庁 保健体育課 指導主事 奥間 あさみ
6	14:50	15:00	休憩	
7	15:00	16:30	講義③ 「こんな風になんか教育 やっています。 ～がん経験者の立場から～」	一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長 天野 慎介 NPO法人愛媛がんサポート おれんじの会 理事長 松本 陽子 NPO法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾 沖縄県学校におけるがん教育 外部講師 豊見山 博子 外部講師 上野 浩司 外部講師 又吉 賢弘
8	16:30	16:50	講義④ 講師の先生方に質疑・応答 外部講師についての疑問や不安 を聞いてみよう	沖縄県教育庁 保健体育課 指導主事 奥間 あさみ
9	16:50	17:00	まとめ・明日の日程	沖縄県教育庁 保健体育課
10	17:00		終了	指導主事 奥間 あさみ

(2日目)

	開始	終了	内容	講師(担当)
	8:45	9:35	2日目研修・ワークショップ: 最終打合せ (外部講師養成プログラム策定委員会)	がん教育連絡協議会委員長 琉球大学病院がんセンター長 増田 昌人 一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長 天野 慎介 NPO法人愛媛がんサポート おれんじの会 理事長 松本 陽子 NPO法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾 保健体育課 指導主事 奥間 あさみ 今枝 聖子
11	9:40	9:55	[ZOOM] オンライン開場	県教育庁保健体育課 指導主事 奥間 あさみ
12	9:55	10:00	挨拶・内容説明	
13	10:00	10:50	講義⑤「がんの知識をどんな言葉 で伝えればわかりやすいか」	国立がん研究センター がん対策研究所 事業統括 若尾 文彦
14	10:50	11:45	講義⑥「オンライン授業に対応す るために気をつけたいこと」 ～コロナ下での外部講師 対応の方法～	NPO法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾
15	11:45	12:00	講師に質問・意見交換	県教育庁保健体育課 指導主事 奥間 あさみ
16	12:00	13:00	休憩	
17	13:00	14:00	ワークショップ① 「話したいことを 整理してみよう」	(ワークショップ①②③) 進行: NPO法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾 一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長 天野 慎介
18	14:00	15:30	ワークショップ② グループ①⇒入替⇒グループ② 「自分の体験をみんなの前で 伝える練習～3人1組」	NPO法人愛媛がんサポート おれんじの会 理事長 松本 陽子
19	15:30	16:30	ワークショップ③ 「自分の体験をみんなの前で 伝えてみよう」	(ワークショップ②③) 琉球大学医学部保健学科成人・がん看護学 教 授 照屋 典子
20	16:30	16:55	研修のまとめ ①受講者の感想 ②学校におけるがん教育外部 講師としての活動・講師リスト への掲載等について	県教育庁保健体育課 指導主事 奥間 あさみ
21	16:55	17:00	閉会	

5 他機関との連携等

(ア) 沖縄県がん診療連携協議会及び、同小児・AYA部会への参加：学校におけるがん教育の取組状況の報告等

(イ) 沖縄県保健医療部との連携：「がんサポートハンドブック」（編著：琉球大学病院がんセンター）の提供等

(ウ) 沖縄県がん患者団体との連携：がん教育外部講師養成研修会のプログラム策定や受講者の呼びかけ等

(2) モデル校における取組

モデル校学校名	学年	教科等	実施日	授業者	内容
【小学校モデル校】 那覇市立真嘉比小学校    	6	体育科 保健 領域	R3. 10. 18	T1：学級 担任 T2：養護 教諭	生活習慣病とがんの理解 【目標】 がんの要因やがんのリスクを低くする生活行動及び早期発見のための検診の大切さについて正しく理解できるようにする。 T1：がんの原因 （付箋紙記載⇒画用紙に貼る） T2： がんについて正しい知識。 ①細胞の変化・がんになる仕組み ②早期発見の大切さ ③地域の保健活動について
			R3. 10. 22	T1：学級 担任 T2：外部 講師	がんの理解と保健活動（本時） 【目標】 自分の健康は自分で守る大切さに気づくとともに、講師の話からがん患者の生活や心情、命の大切さについて考え、交流することができる。 T1：前時までの学習を振り返り。 T2：がん体験者による授業。 ①病名 ②告知時の年令 ③治療方法 ④告知された時の気持ち ⑤つらかったこと ⑥告知前とその後の生活の変化 ⑦現代の生活の精神的支え ⑧子ども達に伝えたいこと
【中学校モデル校】 那覇市立金城中学校  	2	保健 体育科 保健 分野	R3. 10. 21	保健 体育科 教諭	がんの予防① 【目標】 がんの疾病の概念や予防などや適切な生活習慣を身に付けることが有効であることについて理解することができるようになる。 ①がんの原因 ②がんを予防するためにできること ③がん検診の役割、大切さ
			R3. 11. 5	T1：学級 担任 T2：外部 講師	がんの予防② 【目標】 講師（がん経験者）の話を聞くことを通して、自己の生活を振り返るとともに、がんを予防するための取り組み

上野先生の話聞いて・・・ がんは、身近になった人があまりいなかったの、生活の変化とか人生が変わっていくんだなと思い、少し怖くなりました。でも「がんになったのは、不運だけど、不幸ではない」と言われ、もちろん悪いこと、つらいことたくさんあったけど、良い方向に変わることもあるんだと思いました。 私は、自分・友達・家族も大切にみんな健康に生きていけるように見直していこうと思います。					や検診の重要性について理解を深めることで実生活に生かしていけるようにする。 T1:前時までの学習を振り返り。 T2:がん体験者による授業。 ①「がん」からの回復～ ②がんを発見するまでの経緯 ・これまでの生活習慣 ・異常を感じた状況（自覚症状） ・検診など ③がんの治療法（回復） ④がん患者の生活の質 ⑤がん患者への理解と共生 ⑥いのちの大切さ
振り返り 『自分が「がん」になると思ってもみなかった』その一言で自分は、目が覚めされた気分だった。どうせ大丈夫だと慢心になた考えを改めようと思った。 いつでも身近にあるということをもっと深く考える必要を感じた。がんになってぬぐいきれない思いもあっただろうが、それさえも自分の生き様としてとてがすごいと思った。					
【高等学校モデル校】 県立中部商業高等学校	1	保健 体育科 科目 保健	R3. 10. 19	保健 体育科 教諭	【単元の目標】 がんの予防と回復、がんとの共生について、理解することができるようにする。 (第1時間目：目標) ①がんの現状と種類、発生や要因について知る。 ②予防の大切さについて考えを深める。 ③生活習慣を見直し、改善するきっかけとすることができる。
【外部講師からの七つの質問】 ①自分の体がいつもと違う、と感じたことはありませんか？ ②「いつもと違う、その感じ」は、どういう状態なのか、考えたことはありますか？ ③自分の体の事を、誰かに相談したことはありますか？ ④自分や家族の体の事を、家族で相談したことはありますか？ ⑤家族は、健康の事に、気を使っているように思いますか？ ⑥自分や家族の健康が気になった時、どこの、だれと相談したらいいですか？ ⑦今日、帰宅したら、家族と「がん」について、お話ししますか？			R3. 10. 26	T1: 学 級 担任 T2: 外 部 講師	(第2時間目：目標) ①体験者の言葉に触れ、沖縄県の現状について知識を深める。 ②がん検診の重要性に気づき、命の大切さについて考えを深める。 T1:前時までの学習を振り返り。 T2:がん体験者による授業。 ①自身の容態について ・下咽頭がん手術 ・食道発声と人口咽頭 ②沖縄県の現状について ・がん検診受診率 ・世界長寿地域宣言 ③がん検診の重要性 ・五つの生活習慣 ・七つの質問
振り返り ・誰でも癌になるということ、検診はきちんと受けた方がいいということを改めて考えることができた。 ・「五つの健康習慣」を家族と実践し、がん検診についても話したい。 ・私も大切な人のために命を大切にしたい。 ・経験者からの話や授業をきけて本当に良かった。 ・もしも、家族や友達ががんになってもサポートしていきたい。 ・自分を変えなきゃいけないと思った授業だった。					

2. 事業の達成度について

(1)「がん教育」研修会

ア がん教育に関する指導に携わる教職員のがんに対する正しい知識と意識の向上及び学校におけるがん教育に関する指導の充実を図るための研修会を実施したことで、がん教育の必要性が理解され、実践事例や指導教材等の普及啓発ができた。

イ 日本女子体育大学 助友 裕子 教授による講義「学校におけるがん教育の効果的な進め方」により学校におけるがん教育の考え方、授業の進め方について理解を深める事ができた。

ウ 受講者アンケート結果：講義内容について「大変良い」「良い」との回答が99%であった。

(2)がん教育教材検討委員会について

ア 小・中・高各校種、発達段階に応じた適切な指導の在り方について検討を重ね、新学習指導要領の全面実施に向けて、文科省作成の指導参考教材や地域の健康診断受診率等のデータを用いた、指導用参考資料を作成することができた。

イ がん専門医やがん患者を検討委員として加え指導助言を頂くことで、より深く教材を検討することができ、指導案の再構築を図ることができた。

ウ 小・中・高モデル校における外部講師の授業内容について、検討し授業(案)を実践することができた。

エ 1時間目「がんの正しい知識」の学習内容の絞り込みと2時間目「外部講師を活用したがん教育」へのつながりについて検討し授業(案)を実践することができた。

(3)がん教育モデル校における取組について

【児童生徒アンケート結果より】

ア がんの学習について

がんの学習が健康な生活を送るために「重要」であり、「役に立つ」との回答が約90%となり、健康教育としてのがん教育につながる結果が示された。

イ 知識編

がんは誰もがかかる可能性があり(99.5%)、身近な病気であることや「早期発見すれば治りやすい」(95.9%)こと、がんの治療法等の正しい理解(81.7%)、定期検診の受診の必要性(97.7%)においても正答率が向上した。

ウ 意識編

たばこを吸わないでいようとする意識、健康な体づくりへの取組、がん検診の受診、がんの治療法の決定、がん患者の生活の理解、家族との対話等の意識について、全ての項目で正答率が上がる結果となった。

【生徒への事前・事後アンケート結果のまとめ】

1) がんの学習について

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」から選択

	[事前]	[事後]
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）・・・	<u>76.8%</u>	<u>89.9%</u>
b がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ（そう思う）・・・	<u>80.1%</u>	<u>91.1%</u>

2) 知識編 ※「正しい」「誤り」から選択

a がんは誰もがかかる可能性のある病気である（正しい）・・・・・・	<u>94.3%</u>	<u>99.5%</u>
b がんは進行すると、今まで通りの生活が出来なくなったり、 命を失ったりすることがある。（正しい）・・・・・・	<u>99.1%</u>	<u>97.7%</u>

cがんは日本人の死因の第2位である（誤り）……………	<u>37.9%</u>	<u>38.5%</u>
d たばこを吸わないこと、バランスよく食事すること、適度な運動 をすることなどによって、予防できるがんもある（正しい）…	<u>94.3%</u>	<u>91.7%</u>
e 早期発見すれば、がんは治りやすい（正しい）……………	<u>89.1%</u>	<u>95.9%</u>
f 体の調子がよい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい（誤り）	<u>88.2%</u>	<u>97.7%</u>
g がんの治療法には手術しかない（誤り）*小・高のみ……………	<u>66.8%</u>	<u>81.7%</u>
h がんの痛みは我慢するしかない（誤り）*小・高のみ……………	<u>86.3%</u>	<u>83.5%</u>

3) 意識編

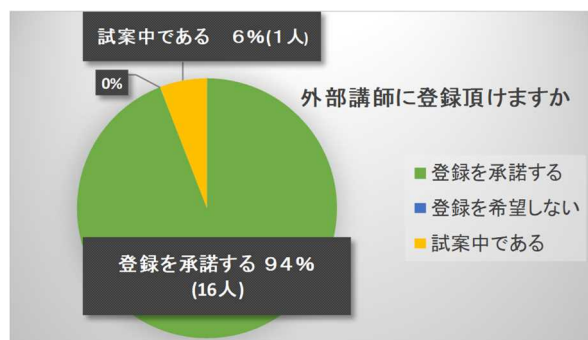
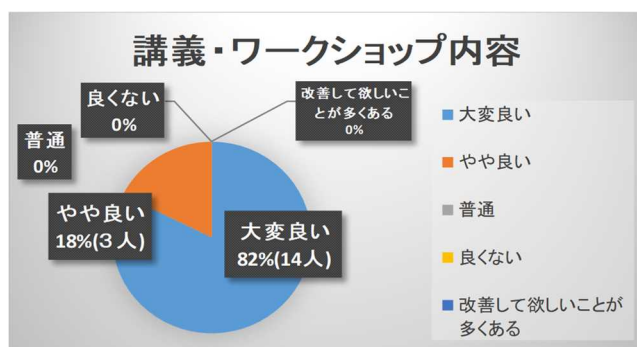
※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」から選択

a 自分はがんにならないと思う（思わない）……………	<u>35.1%</u>	<u>47.2%</u>
b 将来、たばこを吸わないでいようと思う（そう思う）……………	<u>85.3%</u>	<u>88.5%</u>
c 日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な 体づくりに取り組もうと思う（そう思う）……………	<u>57.3%</u>	<u>77.1%</u>
d がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う(そう思う)…	<u>51.7%</u>	<u>70.2%</u>
e がんの治療方法がいくつかあるが、医師が決めるものである（思わない） *小・高のみ……………	<u>14.7%</u>	<u>24.8%</u>
f がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）…………… *小・高のみ……………	<u>20.4%</u>	<u>32.6%</u>
g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う)…	<u>62.1%</u>	<u>76.1%</u>
h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う(そう思う)	<u>34.1%</u>	<u>60.1%</u>
i 家族や身近な人が健康であって欲しいと思う（そう思う）……………	<u>86.7%</u>	<u>93.6%</u>
J長生きするためには、健康な体づくりに取り組もうと思う(そう思う)	<u>78.2%</u>	<u>83.3%</u>

(4)がん教育外部講師養成オンライン研修会 【受講者アンケート結果（回答者 17 人）】

ア 講義及びワークショップの内容について

イ「学校におけるがん教育の外部講師」に登録



思案中(1人)・・・理由：自信がない

ウ 講義の感想

- ・専門の先生の講義の実例、サバイバーの方の実例、ワークショップでは子供に分かりやすいよう、心情を考慮しながら言葉を慎重に選ぶことの大切さが分かりました。
- ・どのように講義（授業）を進めていけばいいか、実際にロールプレイをしたり、他の受講生の例を見たりする事で、具体的に知ることができ、実際の（学校）現場でのイメージができました。

- ・講師の皆様の丁寧なお話、飽きさせない工夫、ひきつけられる話術、どれも素敵でした。色々な立場の方の話を生で聞ける機会はなかなかないので、とても有意義でした。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

（1）カリキュラム・マネジメントによるがん教育の推進

がん教育の目標を達成するためには、がんに対する正しい知識を保健体育の保健学習で身に付けさせ関連教科、特活等を通じて健康と命の大切さやがん患者への正しい理解についての学習を実践していくことが重要である。体育科・保健体育の学習を中核に他の教科と連携した指導（カリキュラム・マネジメントの視点）が、引き続きの課題となる。

（2）外部講師の活用について

ア 外部講師養成プログラム策定委員会が策定した、プログラムにより外部講師養成研修会を県教育委員会が主体となり実施した。次年度からの外部講師養成研修会は外部団体が引き継ぎ実施する方向で調整中である。外部団体、県教育委員会、県保健医療部、県医師会等関連団体が協力・連携し、実施方法や外部講師の授業後のフォローアップ体制を構築していく事が課題である。

イ がん教育の外部講師の引き受け手が少なく、継続した養成が必要であるが、財源の確保が難しく、次年度においても県独自の財源を確保できていない。今後の課題である。

（3）研修会等の充実と普及・推進

ア がん教育実施状況調査が令和3年度は実施されたことから、調査結果等を活用したがん教育研修の充実が課題である。

イ コロナ禍のためモデル校において参加者を限定した検証授業を実施した。そのため、広く教材等を周知することができなかった。今後、管理職研修会や教諭向け研修会等において、教材の活用について周知し、がん教育を推進していくことが課題である。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

（1）教科担当者が「がんに対する正しい知識」を学ぶための質の高い研修や必要な時にすぐ活用できるよう「がん教育教材」を県総合教育センターのHPに掲載する等工夫が重要である。

（2）外部講師を活用したがん教育を推進するためには、外部講師の定期的な養成、外部講師のリスト化、外部講師と学校をつなぐシステム、外部講師と学校が短時間で授業内容の調整ができる方法等の提示が必須である。

（3）外部講師を活用した授業には「力があり、深みがある」が、旅費や謝金等の報償費の捻出できない学校も多い。継続的な課題である。

令和3年度

がん教育総合支援事業 事業成果報告書

地方公共団体名

神戸市

1. 事業の具体的内容について

1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

17名

内訳：医師（内科）4名（学校保健会会長1）

歯科医師 1名

薬剤師 1名

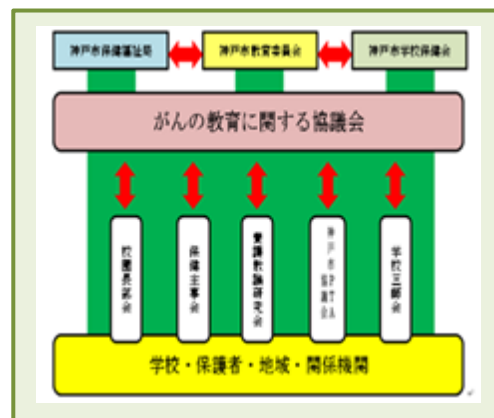
がん患者の会 1名

校長3名（小・中・高 各1名）

養護教諭 1名

神戸市健康局 2名

神戸市教育委員会 4名



2. 開催時期、検討内容

○第1回協議会：書面開催

- ・令和2年度がん教育の取組報告
- ・令和3年度がん教育の推進「がん教育総合支援事業」の実施について
- ・令和3年度がん教育の計画について
- ・教職員向け研修会の実施について
- ・学校における取組、推進校の選定について
- ・学校における取組、推進校の選定について
- ・外部講師の活用に対応できる条件整備について
- ・神戸市作成リーフレットの活用について

○第2回協議会：書面開催

- ・令和3年度の取組について
- ・推進校（飛松中学校）（有馬中学校）でのがん教育の実践（授業等）について
- ・「がん教育 外部講師 協力団体紹介一覧」について
- ・令和4年度の取組の方向性について
- ・ふりかえりアンケート依頼

② 教育委員会としての取組

- ・あらゆる機会をとらえ、がんに関する教育の必要性、国の動向、本年度の取組等を説明し、教職員の意識付けを図るとともに、課題となる内容の把握に努めた。
- ・研修会（コロナにより中止）
- ・リーフレット（KOBE がんガイド 2022 中学校版・がんについて考えよう）作成
- ・推進校2校の取組支援

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

「神戸市がん対策懇話会（神戸市健康局主催）」が開催された。関係部局として出席し、がんに関する教育を含め、神戸市のがん対策を進めるにあたり、がんの専門家、学識経験者や関係機関から、がん対策の在り方等への助言を得た。

また、保健局と連携して、リーフレット（KOBE がんガイド 2022 中学校版・がんについて考えよう）を作成した。

（２）モデル校（推進校）における取組

①神戸市立飛松中学校の取組 学校保健委員会

1. 日 時 令和3年10月27日（水）14：00～
2. テーマ 「がんについて知ろう」
3. 場 所 体育館
4. 対 象 2年生、教職員
5. 内 容 ・講演会 演題 「いのちについて考える～小児がんの子どもをもったお母さんのお話～」
講師 NPO法人チャイルド・ケモ・ハウスより（患児家族）



②神戸市立有馬中学校の取組 道徳地区別研究会

1. 日 時 令和3年12月8日（水）14：20～15：10
2. テーマ 「生命の尊さ」と「いのちの教育」～かけがえのない生命を尊重できる心に～
3. 場 所 各教室
4. 対 象 2年生
5. 内 容 ・授業公開（道徳）「命を見つめて～猿渡瞳さんの六百四十六日～」



○リーフレット（KOBE がんガイド 2022 中学校版・がんについて考えよう）の作成

- # KOBEがんだいど 2022 中学校版

がんについて考えよう

がん教育を通して…
がんについて正しく理解し、健康と命の大切さを考える

「KOBEがんだいど中学校版」は、中学生が学校で学習したときも、また、家庭でがんについて話す機会をもつことで、親子で正しい知識をもち、がん予防、がん治療の重要性を知る、がん教育、がん検診の重要性につなげるために、がんと向き合い、誰もが暮らしやすい社会にしたいことを願って作成したものです。

中学校2年生の保健体育科の授業で、「がんの予防」について学習します。

また、それと関連付け、地域や学校の支援に応じ、特別活動・道徳・総合的な学習の時間等の中で、「がん教育」を進めています。

神戸市でも、多くの取組を行っています。



日本人の2人に1人が、がんにかかるんだって。だから、がん検診に行って、早く発見することが、とても大事なんだよ。



日本人の2人に1人が、がんにかかるんだって。だから、がん検診に行き、早く発見することが、とても大事なんだよ。

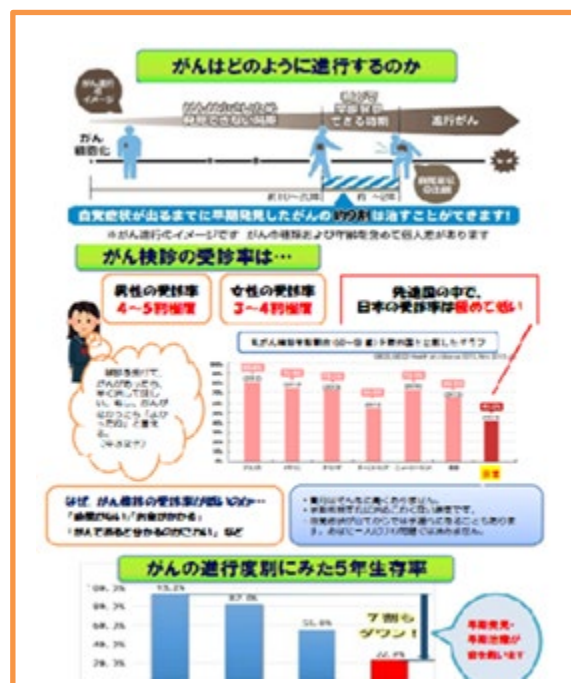


学校でがんの学習をしているんだ。

がん検診、受けてみるよ。

＜神戸市がん対策推進委員会＞（平成28年4月1日策定）

【目的】第1条 この条例は、本市のがん対策を総合的に推進するため、がん対策に関する基本的事項を定め、もってがんの予防及び早期発見の推進並びに地域の人々に係る医療水準の向上並びにがん患者及びその家族への支援を図ることを目的とする。



2. 事業の達成度について

【目標に対しての成果】

○学校への、外部講師リスト活用の啓発

各校が作る学校保健計画の中から、特に「がん教育」への熱心な取組の計画がある学校に対して、外部講師リストを活用した講演等を紹介した。各校がリストから選んだ団体（講師）による講演会などが実現した。

小児がんの子をもつ母親の話を聴くことで、がんについての関心がわき、生徒が自分事として、がんのことを考えるきっかけとなった。生徒は、総合的な学習の時間に募金活動を計画するなど、自発的・具体的な活動の場面を広げることができた。以下、生徒の感想。

【生徒の感想】

- 今までがんというものは大人がなりやすい病気だと思っていたけど、実際は子供でもなる可能性が高いことを知ってとても身近な病気だと思いました。小児がんにかかった子供達はとても辛いはずなのに、毎日笑顔で過ごしたりしていて、周りの大人よりも強くいられるのは凄いことだなと思いました。がんになってしまったからといって夢をあきらめたりするのではなく、なってしまったからこそ色々なことに挑戦していこうという気持ちをもつのが大切なのだと思いました。自分の身近な人に、最近がんが見つかってしまったので、がん教育で得た知識や、がんになってしまった人がどう接してほしいかを知った上で、支えていけたらいいなと思いました。
- 私はこれまで、大きな病気や怪我也全くせずに中学生になったので、そのことがどれだけ幸せなのかを感じた。病気を持っている子は「弱い子」ではなく苦しい治療を乗り越えた「強い子」と話していたのが印象的だった。治療も入院もしてこなかった私が、勝手に「弱い子」とイメージをもってしまっていた。私が経験したことのないような苦しさを乗り越えているのだから、かわいそうとか、大丈夫？ってなるよりも、すごいと思うべきだと思った。いつなるのか分からないし、死んでしまうかもしれない怖い病気だけど、前を向いて生きている人がいることを知れてよかった。
- 私は講演会を聞いて、どのがんの学習の授業より心に響きました。家族など自分の身近な人が、がんを命を奪われる事は、どれだけ悲しく悔しいことかというのが動画を見て分かりました。でも、周りの人の支えがあったから、このような活動していると思ったら、がんにかかっている人やがんで身近な人を失った人など、皆が暮らしやすい社会にしていけるには、周りの人の支えや応援が必要だということに気づかせてもらいました。
- 私が講演会を聞いて印象に残った事は、講師の方のお子さんが小児癌で苦しい時もあったけど、ずっと笑顔だったという場面がとても印象に残っています。理由は、私がもしがんになったらいつも笑顔ではいられないし、少し元気な時でも、そんなに笑顔は出せないと思ったからです。講師の方のお子さんは学校に行ったり、友達に会いに行ったりして、元気な時は行くことができることを初めて知りました。そしてビデオの中にあったように息子さんはなくなってしまったけど、遊ぶときには友達が迎えに来てくれたりして優しいととても感動しました。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ コロナ禍での、教職員向けの研修会の開催方法について
- ・ 教職員に対する、がん教育への理解をさらに深め、指導の手立てを学ぶための研修実施。
- ・ 外部講師の人材 団体の発掘
- ・ 外部講師協力団体一覧の更新
- ・ 他団体との連携強化

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・ 中学校における、がん教育実施の実態の把握の方法について確認する。
- ・ 高等学校は令和 4 年度からの新学習指導要領の改訂に合わせて、各校の実態の把握と実情に応じた取組を促す。
- ・ 小学校においては、校内学校保健委員会での取組を促す。
- ・ 神戸市作成のスライド教材、指導の手引、リーフレットの活用の活性化